

社会・環境への責任 2013



コンテンツ

CONTENTS

トップメッセージ	1
----------	---

国連グローバル・コンパクトに参加	2
------------------------	---

企業方針	3
------	---

コーポレート・ガバナンス	5
--------------	---

コンプライアンス	8
----------	---

特集：医療を通じて社会に貢献する

傷を小さく、痛みを少なく、回復を早く。ー血管内治療	9
---------------------------------	---

難病と闘う患者さんに、治療の望みを。ーアフレスリス治療	11
-----------------------------------	----

社会との関わり

ステークホルダーとともに	12
--------------------	----

お客様とともに	13
---------------	----

株主・投資家とともに	18
------------------	----

お取引先とともに	20
----------------	----

社員とともに	22
--------------	----

社会貢献活動	30
--------------	----

環境・安全衛生への取り組み

特集：人にも環境にもやさしい企業を目指して	35
環境・安全に配慮した商品	39
地球温暖化防止	45
資源の有効活用	49
化学物質の適正管理	54
グリーン調達・グリーン購入の推進	57
生物多様性保全の取り組み	59
環境・安全監査の実施	61
事業活動・物質フロー	63
サイトデータ	64
取り組みの歴史	65

コーポレートデータ

社会・環境活動の目標と実績	67
5年間財務サマリー（連結）	70
事業別概況	71
地域別営業概況	72

報告方針	73
------------	----

トップメッセージ

A Message from the President

世界で、医療への貢献を続けるために

テルモは、「近代医学の父」として知られる北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。「優良な体温計をつくり、国民の健康を守る」という北里博士たちの医療への志を、私たちは大切に守り、引き継いでいます。企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、世界各国に製品やサービスなど医療テクノロジーの提供を続け、医療を取り巻くさまざまな課題に積極的に対応していきます。

持続的かつ収益性のある成長をめざして

現在、世界の医療機器を取り巻く市場の環境は、転換期を迎えています。先進国では市場の成長が鈍化し、医療費抑制に向けた動きが強まっています。新興国においても、医療への需要が拡大しているものの、価格への圧力が高まっています。このような環境変化は、逆風とも思われがちですが、当社の参入領域においては今後も成長が期待できると考えております。例えば、カテーテルを用いた血管内治療は、心臓の血管だけではなく、脳や下肢など全身の血管に広がっています。また、血液の分野においては輸血療法に加え、免疫疾患などアフレスシス治療の需要も高まっています。さらに、ホスピタル分野では、医療事故や感染を防止するセーフティ化のニーズがますます高まっています。

新たな市場のニーズを成長のチャンスとして活かし、継続した医療への貢献を実現するため、当社は2013年4月から新しい4年間の中期経営計画をスタートいたしました。長期目標である「世界で存在感のある企業」を目指し、「持続的かつ収益性のある成長」を基本方針として今中期経営計画を推進してまいります。

web 新中期経営計画



代表取締役社長

新宅祐太郎

国連グローバル・コンパクトに参加

テルモでは、国連の提唱する「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則からなる国連グローバル・コンパクトの取り組みに賛同し、2012年に署名を行いました。

「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、企業活動規範として「5つのステートメント」（1996年制定）を掲げ、企業活動を行っており、すでに世界の医療に貢献すべくグローバルでの事業展開を図っていますが、今後一層、グローバル企業の一員として責任を果たし、持続的成長を目指してまいります。

国連グローバル・コンパクトの10原則			該当関連箇所
人権	原則1	人権擁護の支持と尊重	P8、23-26
	原則2	人権侵害への非加担	
労働基準	原則3	組合結成と団体交渉権の実効化	P8、21-28、37
	原則4	強制労働の排除	
	原則5	児童労働の実効的な排除	
	原則6	雇用と職業の差別撤廃	
環境	原則7	環境問題の予防的アプローチ	P35-69
	原則8	環境に対する責任のイニシアティブ	
	原則9	環境にやさしい技術の開発と普及	
腐敗防止	原則10	強要・賄賂等の腐敗防止の取組み	P4-8



5つのステートメント

▶ 開かれた経営

私たちは、開かれた経営を基本とし、適正な利潤の確保・還元につとめ、リーディング企業にふさわしいグローバルな事業発展を図ります。

▶ 新しい価値の創造

私たちは、科学的思考と時間と柔軟な発想を重んじながら、価値ある商品とサービスを創造し、より深くお客様のニーズに応えます。

▶ 安全と安心の提供

私たちは、誠意とこだわりを持って技術と品質の向上にとりくみ、安全と安心を提供します。

▶ アソシエイトの尊重

私たちは、個の尊重と異文化の理解を大切に、アソシエイト・スピリッツのもとに、未来にチャレンジする風通しのよい企業風土をつくります。

▶ 良き企業市民

私たちは、公正な企業活動と環境への責任ある行動を展開し、信頼される企業市民をめざします。

企業方針

Corporate Policy

企業理念

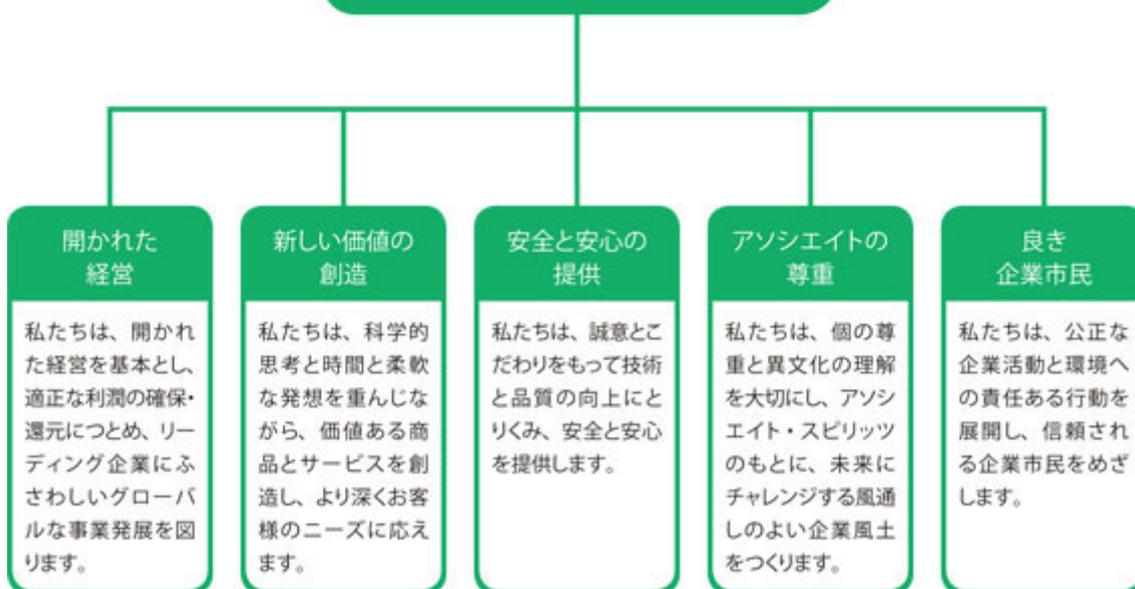
医療を通じて社会に貢献する

私たちは、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供し、医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します

ビジョン

テルモはユニークな輝く技術で、人にやさしい医療を実現します

5つのステートメント



アソシエイト・スピリッツ

「人は資産」と考えるテルモでは、社員を「アソシエイト」と呼んでいます。1996年にアソシエイト自らが考え出した4つのキーワード「アソシエイト・スピリッツ」は、一人ひとりが「主体的にチャレンジし、お互いを尊重しあうことでチーム力を発揮し、お客様により高い品質とサービスを提供する」ことを宣言しています。



テルモのこころ

創業以来培ってきた独自の考え方や仕事の仕方はテルモの個性であり、テルモだけが作り出せる価値やブランドの源泉です。その一方で、常に変化する社会にすばやく対応し、新しい価値を創造・提供できなければ、企業は存在価値を失い、社会的使命を果たせません。

これからもテルモがテルモであり続けるためには、柔軟に変えていくべきものも必要ですが、未来に向かって決して変えてはいけない基本的な考え方と志があります。それが「テルモのこころ」です。



テルモのこころ

コーポレート・ガバナンス

Corporate Governance

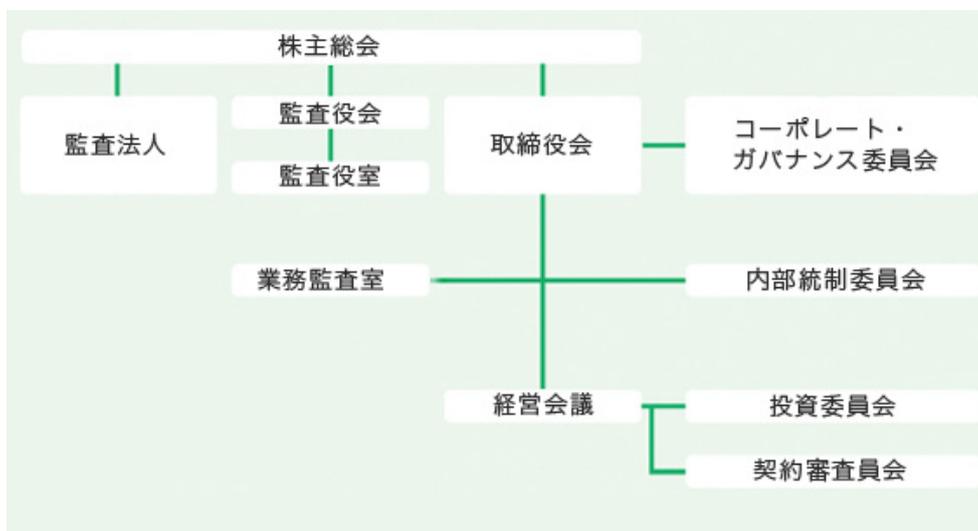
テルモは、社会から信頼される企業であり続けるため、取締役会において以下の「コーポレート・ガバナンス方針」を2011年11月に定めています。

1. 基本的な考え方

- テルモは『医療を通じて社会に貢献する』を企業理念とする。その理念の下、世界中の顧客、株主、社員、取引先、社会などのステークホルダーの期待に応え、長期に亘る持続的成長および企業価値の最大化を達成するために、価値ある商品とサービスを提供する。
- 企業理念をより具体化するため、「開かれた経営」、「新しい価値の創造」、「安全と安心の提供」、「アソシエイトの尊重」および「良き企業市民」を5つのステートメントとして設定し、全アソシエイトの活動および判断の基準とする。
- 企業理念および5つのステートメントを基本に、コーポレート・ガバナンスの公正かつ効果的な仕組み作りを推進するとともに、アカウンタビリティ(説明責任)を充実させることにより社内外からの理解と信頼が継続して得られるよう努める。
- コーポレート・ガバナンス体制が実効を上げるには、自由闊達な、明るい、働きがいのある企業風土が不可欠であり、その風土の醸成に努める。

2. コーポレート・ガバナンス体制

テルモは、取締役会による業務執行の監督機能と監査役会による監査機能を有する監査役会設置会社である。加えて、経営の透明性と客観性を高めるため、コーポレート・ガバナンス委員会および内部統制委員会を任意の機関として設置する。



(取締役と取締役会)

(1)役割

- 取締役会は、法令、定款および取締役会規則で定められた事項を決定する。
- 取締役会は、取締役および執行役員の職務の執行を監督する。
- 取締役会は、企業価値の最大化に向け経営に関する最適な意思決定に努める。
- 取締役会は、コーポレート・ガバナンスの機能を果たす。

(2)構成

- 取締役の員数は15名以内とし、うち、社外取締役は2割以上を目処とする。
- 社外取締役は、東京証券取引所の定める独立役員の要件を満たす者とする。
- 取締役会の議長は、代表取締役会長とする。

(3)任期

- 取締役の任期は1年とする。なお、再任を妨げないものとする。

(監査役と監査役会)

(1)役割

- 監査役は、取締役会その他の重要会議へ出席し、取締役の職務執行を監査し、かつ経営に関する的確な意見を陳述する。
- 監査役会は、次に掲げる職務を行う。
 - 監査報告の作成
 - 常勤の監査役の選任および解職
 - 監査の方針、会社の業務および財産の状況の調査方法、その他監査役の職務の執行に関する事項の決定

(2)構成

- 監査役の員数は5名以内とし、うち、社外監査役は半数以上とする。
- 社外監査役は、会社法に定める要件および東京証券取引所の独立役員の要件を満たす者とする。
- 監査役会の議長は、決議により監査役の中から選定する。

(3)任期

- 監査役の任期は4年とする。なお、再任を妨げないものとする。

上記の法定機関のほか、コーポレート・ガバナンスの一層の充実のため、以下の機関を設置する。

(コーポレート・ガバナンス委員会)

(1)役割

- 取締役会の公正性および経営の透明性を高めるため、次の事項に関し、審議および助言を行う。
 - コーポレート・ガバナンス体制の充実
 - 取締役・監査役および執行役員各候補者の選任
 - 取締役・監査役および執行役員の報酬体系の設定

(2)構成

社外取締役、代表取締役および委員長の指名する者により最大6名で構成する。
うち、東京証券取引所の独立役員の要件を満たす社外取締役を半数以上とする。

(3)委員長

コーポレート・ガバナンス委員会の委員長は、委員の互選により社外取締役より選定する。

(内部統制委員会)

(1)役割

経営のリスクマネジメントおよびコンプライアンスの推進、
ならびに企業情報の法定開示および適時開示に関する管理を行う。

(2)構成

委員長が任命する取締役、関係部門長に加え、専門部会長、業務監査室長および内部統制推進室長により構成する。

(3)委員長

内部統制委員会の委員長は代表取締役社長とする。

なお、社外取締役の選任にあたっては、ガイドラインを設け、異なる経歴、専門分野、男女など可能な範囲で多様性のある構成を考慮しています。



コーポレート・ガバナンス報告書

コンプライアンス

Compliance

コンプライアンス

コンプライアンス体制

テルモの企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」は、企業としてだけでなく、全アソシエイトのめざすところです。医療に関わる企業としての高い倫理観を持って事業を行っていくために、これからも法令遵守と企業倫理を軸とした公正・公平な事業活動を進めていきます。

当社は、これらの活動を推進するために、取締役会において「内部統制システムの基本方針」を決議し、その基本方針に基づき、「内部統制委員会」を設置して、コンプライアンスの観点からグループ全体の重要な課題を審議・実行しています。また、「内部統制委員会」の指示のもと、グループ各社は、コンプライアンス活動を推進する役割で「コンプライアンス・オフィサー」を設置し、各社での取り組みを実践しています。その活動を通じて、重要な情報を「内部統制委員会」に報告・審議することでグループ全体のコンプライアンス活動を推進しています。

 「内部統制システムの基本方針」(PDF)

「テルモグループ行動規準」の遵守

テルモは企業に求められる社会的要請により深く応えるため、海外を含むテルモグループの全社を対象に日常の行動規準を定めた「テルモグループ行動規準」を2008年4月に制定し、テルモグループ全社を挙げて、法令遵守はもとより社会倫理に従って行動するように取り組んでいます。

「テルモグループ行動規準」では、「企業理念」と「テルモのこころ」を礎に「アソシエイトひとりひとは公正な事業活動と環境への責任ある行動を展開し、信頼される企業市民の模範とならなければなりません」と宣言し、各職場に応じた研修を実施するなど、企業倫理の重要性を認識できる環境を整備しています。また、人権の尊重や差別的排除についても明文化し、グローバル企業として徹底した取り組みをしています。

「公務員との適正な関係」について

テルモグループの全アソシエイトは、当社が制定した「テルモグループ行動規準」及び「テルモグループ贈賄防止基準」(2013年5月制定)に従い、行政機関、その職員及びこれらの国公立医療機関関係者等の公務員等と業務を行う場合、その業務を公平かつ透明・健全・誠実に行い、日本の不正競争防止法、米国の海外腐敗行為防止法(Foreign Corrupt Practices Act; FCPA)ならびに当社が事業活動を行う全ての地域・諸国における汚職防止法令を遵守する活動を推進しています。

「企業倫理ホットライン」

当社では、内部通報制度として「企業倫理ホットライン」を2003年に開設しました。「企業倫理ホットライン」には、「テルモグループ行動規準」に照らして気になる内容・状況があった場合、正社員・派遣社員の区別なく、誰でも連絡・相談することができます。匿名でも電話、メール、封書などが利用できる体制を整えるとともに、顧問弁護士事務所に社外窓口を設置し、プライバシー保護や不利益の禁止を徹底した上で、利用の促進を図り、改善すべき問題に取り組んでいます。

特集：医療を通じて社会に貢献する

Feature Report: Contributing to Society through Healthcare

傷を小さく、痛みを少なく、回復を早く。－血管内治療

血管が狭くなったり塞がったりするのは、心臓の血管だけではなく、脚の末梢血管などにコレステロールがたまり血流が悪くなり、放置すると壊疽を引き起こし、切断しなければならないこともあります。こうした末梢動脈疾患の治療では、従来は皮膚に大きくメスを入れ、代わりとなる血管で迂回路をつくるバイパス手術が主流でした。いま、脚の血管でも心臓の血管と同じようにバルーンカテーテルやステント* で病変部を拡げる血管内治療も選択肢となりました。「痛みを少なく、治療の痕は小さく。一日でも早く日常生活を取り戻したい」世界の患者さんの共通の願いです。

*メッシュ状の金属の筒



▶ 患者さんの負担が少ない「血管内治療」を全身へ

高齢化や生活習慣病により、心臓の血管だけでなく脚や脳の動脈疾患が世界で増加しています。手首や太ももの動脈から細いカテーテルを挿入して行う血管内治療は、ごく小さな切開で済むため、外科手術に比べて身体的な負担が少なく、体力の弱い患者さんにも適用しやすい治療法です。治療の痕が目立たないのもメリットです。テルモは、長年にわたり心臓血管領域で培ってきた製品技術や実績を全身のさまざまな血管内治療に活かし、患者さんができるだけ早く安全に日常生活に戻れるように支えています。

▶ 脚の動きにフィットする末梢血管用ステント

テルモのステントは、拡げた血管の内腔を保ちながら、脚の血管のねじれや曲がりにも追従するように設計しています。



末梢血管用ステント

▶ 脳動脈瘤の破裂を防ぐ脳動脈瘤治療用コイル

脳血管の領域では、動脈瘤にコイルを詰めて破裂を防ぐ治療法が普及しています。開頭手術が難しい深奥部の治療も可能にします。テルモは、コイルの隙間をゲルで充填し、塞栓率を高めるしくみのハイドロゲルコイルも提供。脳動脈瘤の血管内治療の普及率は欧米で50%以上、日本では30%ほどですが、さらに拡大する見込みです。



脳動脈瘤治療用コイル



インタビュー

テルモの末梢血管用ステントを数年前から使用しています。柔軟でありながら血管をしっかり拡げる力を持つこのステントを、脚の動脈疾患の治療におけるステントのスタンダードとして期待しています。

Karl-Ludwig Schulte, M.D.

Vascular Center Berlin
Dept. Internal Medicine

難病と闘う患者さんに、治療の望みを。－アフェレシス治療(血漿交換)

原因が解明されていない自己免疫性疾患や難治性炎症性疾患、ウイルス性疾患。治療が困難な「難病」といわれる病気が多く存在します。身体的にも精神的にも大きな負担を抱える難病の患者さんに、新たな治療の選択肢をもたらすのが「アフェレシス*1治療」です。患者さんの血液から、病因物質を含む血漿を分離・除去し、献血で提供された血漿などと交換する治療法で、症状の改善と生活の質の向上が期待できます。難病の患者さんにとって、治療の機会を得られることは明日への希望につながります。重症筋無力症などで車いすを利用していた患者さんが、この治療によって歩行が可能になった症例もあります。

*1 「アフェレシス」とは、ギリシャ語に由来する言葉で「除去」または「分離」を意味します。



▶ テルモが支えるアフェレシス治療

患者さんの血液中の血漿を遠心分離で分離・除去し、献血で提供された血漿などと交換するアフェレシス治療は、海外では難病治療に多く適用されています。テルモは、遠心分離の技術を活用した装置で、アフェレシス治療を支えています。今後、アフェレシス治療が適用される疾患が増え、難病の患者さんにより多くの治療機会が提供されることが期待されます。

▶ 血液成分を効率的に分離・除去

テルモの遠心型血液成分分離装置は、効率よく血漿を分離・除去することができ、またその処理中に体外循環させる血液量を減らすことができます*2。これにより、患者さんの負担の軽減を目指しました。

*2 当社従来品比較

※ 現在、日本ではこの遠心分離法による血漿交換療法の全面的な保険適用はされていません。



遠心型血液成分分離装置



インタビュー

アフェレシス治療は、多くの薬剤にあるような副作用の心配がありません。血漿交換での治療が有効な特定疾患に対して、広く普及していくことを期待しています。

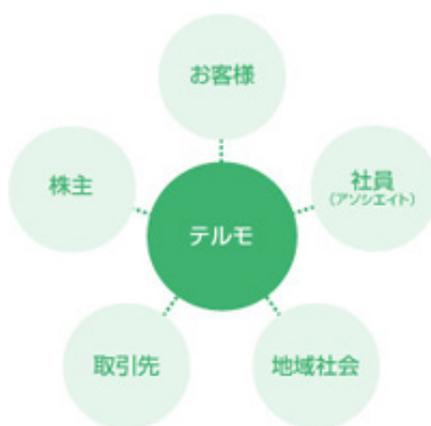
Amber Sanchez, M.D.
Associate Medical Director
University of California San Diego

ステークホルダーとともに Together with Stakeholders

テルモの事業活動は、様々な立場の方々に支えられて成り立っています。商品を使われるお客様をはじめ、テルモを取り巻くすべての方々がステークホルダーです。テルモはみなさまと良好なコミュニケーションを図りながら、今後ともに成長していきます。

テルモのステークホルダー

- 株主
開かれた経営と公正な企業活動のもと、企業価値の向上を継続します。
- 取引先
重要なパートナーとして、公正・自由な取引と法令遵守のもとに商品を提供します。



- お客様
医療従事者、患者さんや一般消費者など、お客様との密接なコミュニケーションのもと、安全で高品質な商品やサービスを提供します。
- 社員(アソシエイト)
能力を発揮できる職場環境をつくり、グローバルに活躍できる人材を育成します。
- 地域社会
生活や環境に配慮しながら、よりよい医療環境の普及に努めます。

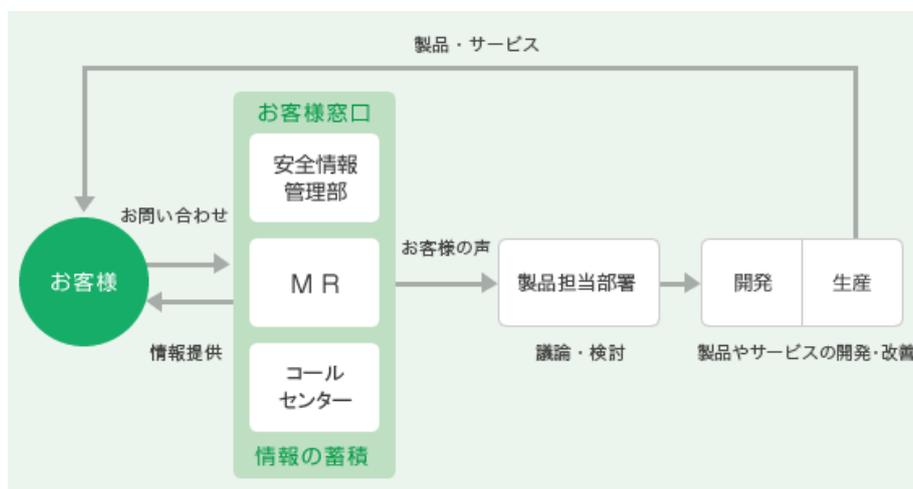
お客様とともに

Together with Customers

お客様とコミュニケーションを図りながら安全で質の高い製品やサービスの提供に取り組むことが、医療を支えるテルモの役割であり、責任であると考えています。

お客様との関わりに対する考え方

テルモのお客様は、医療従事者や患者さん、健康や病気に関心のある一般消費者の方々などです。お客様のニーズを的確にとらえ、お客様にとって価値のある製品を開発することが、私たちの役割であると考えています。また、販売した商品をお客様に安心してお使いいただくための情報提供やサポートも重要な取り組みとして位置づけています。テルモは、こうした考えのもと、お客様とのダイレクトかつ密接なコミュニケーションを安全な医療の基礎として、製品開発とサービスの両面から人々の健康な暮らしに貢献できるよう、事業活動を遂行しています。



適正使用に向けた情報提供

医療機器や医薬品の適正使用に向けて

テルモのMR^{*}は、医療機器や医薬品の適正使用や有効性、安全性を確保するため、医療機関に対して正確な情報収集と迅速な情報提供を行っています。また、医療者の技術習得に向けて、総合医療トレーニング施設「テルモメディカルプラネックス[®]」において、カテーテル治療や注射、採血など多岐にわたるトレーニングをサポートしています。

※MR：Medical Representativeの略。医療機関向けの情報担当者。

 テルモメディカルプラネックス



「テルモメディカルプラネックス」でトレーニングをサポート

プロモーションコードの遵守

テルモは、医療機器や医薬品の適正なプロモーションに向けて、業界の自主ルールであるコード・オブ・プラクティス「プロモーションコード」の遵守に努め、また社会的責任を果たして倫理的な企業活動を実践すべく、自社で「テルモ コード・オブ・プラクティス」を策定しています。今後も、その遵守に努めてまいります。

企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針

テルモの事業活動がライフサイエンスの発展に寄与していること、また高い倫理性を担保した上で企業活動が行われていることについて広く理解を得るため、自社で「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」「企業活動と患者団体との関係性に関する指針」を定めています。それにより、事業活動に伴う医療機関・医療関係者等への資金提供実績の情報を2013年度より公開します。

「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」

「企業活動と患者団体との透明性に関する指針」

<加盟団体ガイドライン>

医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン

企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン

企業活動と患者団体の関係の透明性ガイドライン

体外診断用医薬品の企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン

お客様の声に耳を傾ける

「患者さんの日」

企業理念「医療を通じて社会に貢献する」に立ち返り、想いを共有することを目的に、グループ全社員を対象にしたイベント「患者さんの日」を2013年よりスタートさせました。国内外の各事業所で4月から5月にかけて行っており、日本では5月22日、東京大手町の日経ホールで開催しました。

テルモの医療機器を用いて治療を受けられた患者さんとその主治医をお招きし、製品開発者やMR（医薬情報担当者）を交えたパネルディスカッションを行いました。

心筋梗塞でカテーテル治療を受けられた方、糖尿病治療をされている方、また白血病で幹細胞移植を受けられた方から、ご自身の闘病体験や治療の経緯などについてお聞きしたことで、医療に携わる企業としての使命を再認識する場となりました。会場には本社地区の社員約500名が参加し、また国内各事業所へも同時中継しました。

テルモは世界の患者さんに貢献できるよう、今後も事業活動に取り組んでまいります。



東京大手町で開催した「患者さんの日」



ポスター

テルモ・コールセンター

テルモ・コールセンターは、一般のお客様、医療機関、代理店の皆様から、年間約30万件にのぼる主にお電話でのお問い合わせをいただいています。テルモの商品は医療機関で使われるもの、家庭で使われるものなど様々ですが、一つひとつのお問い合わせにすばやく的確に回答するため、分野ごとに専門のコミュニケーターが対応しています。お客様に満足いただけるようコミュニケーションの維持・向上に努めるとともに、在宅医療の患者さんなど緊急性が高い分野のお問い合わせに関しては、24時間対応しています。また、お寄せいただいたお客様の声を社内に反映していく仕組みも強化し、製品の改善や開発に役立てています。



専門知識を持つコミュニケーターが対応

お客様の声を製品へ生かす

医療安全に関する情報を蓄積

お客様から寄せられる、製品の品質や安全性・適正使用に関する情報は社内の安全情報管理部に蓄積されています。重要な情報は添付文書に記載するほか、ウェブサイトや業界団体を通じた情報発信、MRが医療機関を訪問して情報を提供するケースなど、スピーディかつきめ細かなコミュニケーションが図られています。

また、蓄積された情報は製品の開発や改良・改善、医療安全に関する医療機関の研修サポート(T-PAS[※])にも生かされています。

※T-PAS：Terumo Proactive Action for Safetyの略。テルモ独自の予測に基づいた安全対策の研修会。

医療機関の研修をサポート

テルモでは、シリンジや輸液セットなどの医療機器による事故を防ぐため、添付文書に記載された注意事項のうち、重要度の高い事象を模擬的に体験して理解する「T-PAS」を各医療機関で行っています。医療従事者の皆様より、「事故につながる使用方法を模擬体験することで、改めてリスクの重大さに気づいた」「思い込みや先輩からの口頭伝承による使用方法だけに頼ってはいけないことに気づいた」などの評価をいただいています。毎年開催されている医療の質・安全学会学術集会では、これまでに全国各地の病院からこの研修について報告がありました。



医療機器の正しい使用方法を学ぶ研修をサポート

使いやすい製品やサービスの提供

安全かつ簡単な操作で商品をご使用いただけるよう、テルモでは多くの商品で人間工学に基づいた開発を行っています。血糖測定システム「メディセーフフィット」は、患者さんの動作を分析し、加齢や合併症などで指先や目が不自由な患者さんに向けて、血液を吸引しやすいように機器の先端をカーブ形状にしました。また画面表示はユニバーサルデザインフォント[※]を用いて、見やすさを実現しました。

※ユニバーサルデザインフォント：使いやすさ、見やすさなど細かい部分にも配慮や工夫をした書体



患者さんの使いやすさを追求した血糖測定システム「メディセーフフィット」

安全・安心を追求する品質への取り組み

品質を守ることは医療に関わる企業の重大な責務であり、テルモの企業価値を根底で支えています。より安全に、安心してお客様にお使いいただくため、テルモでは製品の品質にサービスの品質を加えた総合品質の向上に、全アソシエイト(社員)が取り組んでいます。

国際規格に適合した品質保証のしくみ

1995年、テルモは欧州の医療機器指令への対応を皮切りに、国際規格に適合した品質マネジメントシステムと既存の医薬品GMP^{※1}をベースにした高度な品質保証体制の融合を進めました。そして現在、グローバルな要求に適合する品質マネジメントシステムの構築を継続的に推進しています。

医療機器の品質保証のための国際規格であるISO13485^{※2}の外部認証を、国内・海外すべての生産拠点で取得しています。また、薬事法、欧州医療機器指令、近年強化されている米国のFDA規制のほか、グローバルハーモナイゼーションの潮流に伴い、急速に強化が進む新興国での規制など、医療機器や医薬品に対する各国規制の最新動向を早期に把握し、品質マネジメントシステムの一層の改善に努めています。



工場での厳しい品質管理

※1 医薬品GMP：原料の受入から製造、出荷までのすべての過程で製品が安全につくられ、品質を保つために定められた規制システム。

※2 ISO13485：医療機器の品質保証のための国際標準規格。

テルモの品質方針

品質マネジメントシステムの構築と実施、その有効性の維持のため、経営者が自ら品質方針を定めています。各部門はこの方針に基づいて品質目標を設定し、トップの方針がアソシエイト一人ひとりの目標に落とし込まれていきます。品質方針の一番目に掲げている「お客様の視点」がテルモの品質保証のベースになっています。

品質方針

私たちは、医療の現場に安全と安心をお届けするため、

- お客様にとって価値ある製品を追求します。
- 品質システムにおける自らの役割を理解し、実践します。
- 仕事の進め方を常に見直し、改善します。

テルモ株式会社

高品質を守り抜く監査体制

品質を維持・向上させるため、品質マネジメントシステムが適切に遵守・運用されていることを客観的に評価する内部監査を実施しています。内部監査は、トレーニングを積み、社内認定を受けたアソシエイトが行います。結果は経営者に報告され、改善指示がなされ、それに基づき品質マネジメントシステムの継続的な改善につなげます。さらに、薬事法をはじめ欧米各国から全世界に拡大しつつある規制や、取引先企業からの個別要求事項に適合していることを証明するため、年に数回の外部監査を受けています。



厳しさを増す外部監査にも対応

海外でも厳しい品質管理を実施

海外工場の役割が増す今、国内で培った品質向上のノウハウを海外アソシエイトに伝える一方、体系的な考え方や標準化といったシステム面の多くを彼らから学んでいます。海外アソシエイトとの相互交流を続ける中、国内で独自に発展した評価手法の「初期流動品質確認[※]」が、海外工場でも「Shoki-Ryudo」として導入されています。

※ 初期流動品質確認：新製品を量産移行する際に、品質の不具合の有無や製品仕様などを「お客様の視点」に立って再度確認する品質管理。

株主・投資家とともに

Together with Shareholders and Investors

テルモは、企業価値の向上による安定的な株主還元と、適時適正な情報開示、株主や投資家の皆様とのコミュニケーションによる「開かれた経営」に努めています。

株主還元の基本方針

テルモは、高い利益性と持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図っています。これは、株主の皆様利益に適うものであり、投資価値の増大につながるものと考えています。

株主の皆様への利益配分については、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目標としています。

 配当の詳細

IR (情報開示)の基本方針

テルモは、広く社会から信頼されることを目指し、透明性・公平性・継続性を基本に、金融商品取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則に則った情報の開示を行うほか、テルモをご理解いただくために有効と思われる情報についても、タイムリーかつ積極的な情報開示に努めています。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主総会

株主総会では、業績報告はもちろん、テルモの商品や技術がどのように医療に貢献しているかについて分かりやすく解説しています。また、開会前には企業理念の実現に向けた取り組みをお客様とアソシエイト(社員)の声でお伝えする映像を上映しています。さらに製品の展示コーナーを設置し、医療機器を間近でご覧いただくことで、テルモへの理解を深めていただけるよう努めています。



株主総会

決算説明会

証券アナリストや機関投資家向けの決算説明会を、四半期ごとに開催しています。決算説明会には、代表取締役をはじめとした関係者が出席し、業績、増減要因、今後の経営戦略についてご説明しています。また、説明会で使用した資料やスピーチをウェブサイトに掲載し、投資家の皆様に公開しています。

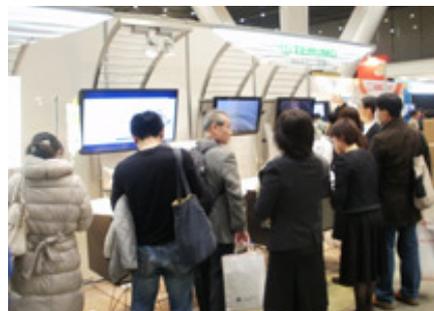


決算説明会

個人投資家向け説明会・イベント

個人投資家の皆様との直接対話の場として、個人投資家向け会社説明会を全国各地で開催しています。また、東京証券取引所などが主催する個人投資家向けIRイベントへの出展も積極的に行っています。

web 個人投資家向け説明会



IRフェスタ

株主通信

株主の皆様へ年2回、「株主通信」をお送りし、テルモの業績や成長戦略、配当の情報などをご報告しています。また、個人投資家向け説明会やIRイベントの際にも「株主通信」を配布し、個人投資家の皆様に少しでも理解を深めていただけるよう努めています。

web 株主通信



株主の皆様へ年2回発行

IRウェブサイト

テルモは、自社ウェブサイト「株主・投資家の皆様」で、テルモの紹介や各種開示資料など、株主・投資家の皆様に必要な情報を発信しています。また、テルモを知らない投資家の皆様にもテルモについて理解を深めていただけるよう、ウェブサイト「テルモのやさしい会社案内」で、テルモの強み、理念、今後の成長戦略などを分かりやすくご紹介しています。

web 株主・投資家の皆様

web テルモのやさしい会社案内

お取引先とともに

Together with Partners

テルモは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、患者さんや医療従事者に対して、安全かつ安心に商品をお使いいただけるよう、資材・サービスのお取引先選定及び調達を推進しています。

原材料調達に関するポリシー

テルモは人にやさしく環境にもやさしい企業を目指し、2009年10月、「Human×Eco[※]開発指針」を策定しました。これにより、

1. 次世代に害のない材料選定（環境負荷の低減）
2. 資源を無駄なく使用できる材料選定（省資源化による削減）

なども考慮し、新たなステージの調達を目指しています。

このような考えを基本にお取引先と公平かつ公正な関係を維持・継続し、また、各国の薬事規制・法令ルールにのっとった原材料の調達に、継続的に取り組んでいます。

品質向上の推進

製品の品質をより高めるために、原材料のみならず品質システムに影響のあるサービス（例えば、生産設備・金型設計、工程請負など）の品質管理強化にも積極的に取り組んでいます。

とくに近年、FDA（米国食品医薬品局）による規制強化など、グローバルにサプライヤー管理の重要性が増しているため、お取引先には当社に提供する資材及びサービスの品質が最終製品の品質に影響を与えることを充分ご理解いただいた上で、不断の品質向上や当社による定期的なお取引先への品質システム監査の実施にご協力をいただいています。

また、このような監査情報や品質情報などについて当社の工場間で共有化を図ることにより、調達活動を通じた最終製品のさらなる品質向上に努めています。

安定調達への取り組み

テルモの商品は160か国以上へ販売されており、生産は日本で5拠点、海外では19拠点で行われています。調達に関する環境が激しく変化する中で、品質と安定供給の確保を第一に、医療現場へ高品質の商品を供給できるよう最適地購買に取り組んでいます。

2011年の東日本大震災発生時にはサプライチェーンの寸断にもかかわらず、医療に優先供給するというお取引先のご理解のもと、「医療を止めない」を合言葉に原材料を確保することができました。この経験を基にお取引先にご協力いただき、さらなる安定調達体制の確保に取り組んでいます。

お取引先へのアンケート

お取引先から信頼される調達部門を目指し、さらなる改善を図るため、毎年、お取引先へのアンケートを実施しています。アンケート項目は、当社の取引上のビジネスマナーをはじめ、取引倫理、取引先選定方法といった取引に関わる内容で、多岐にわたっています。2011年からは、「医療を止めない」安定調達を行うため、BCP（事業継続計画）に関するアンケートも追加しました。お取引先からいただいたご回答やご意見に基づき、テルモの調達部門の課題を分析した上で、工場調達部門へフィードバックし、課題を解消するとともに今後の調達活動のあり方を確認し、反映するツールとして役立てています。また、必要に応じて、ご意見をいただいたお取引先と直接話し合う機会を持つなど、相互の信頼関係向上に努めています。

購買に関するコンプライアンス教育

購買に関してお取引先との相互コミュニケーションを図れるよう、お取引先の選定から発注、請求支払いの基本ルールを中心にアソシエイト(社員)に説明し、下請法の理解と周知を図るべく研修を実施しています。内部統制の意識付けとともに下請法遵守の維持・向上に努めています。

また、公正取引委員会・中小企業庁主催の講習会へ積極的に参加することで、下請法の啓発と推進を行っています。下請法強化月間には、下請法遵守状況のチェックとヒアリングを行い、親事業者として遵守すべきポイントの徹底と再認識を図っています。



購買に関するコンプライアンスの社内研修

社員とともに

Together with Our Associates

全員が主役となって「自らを高め続ける努力をし、主体的に考えて行動する人」という意味を込めて、テルモグループでは社員のことを「アソシエイト」と呼んでいます。

テルモグループでは、企業の真の価値はそこで働く人たち、すなわちアソシエイトの価値の総和であると考えています。

創立以来の企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」という使命を果たすため、テルモグループは、大切な資産であるアソシエイトが能力を最大限に発揮し、成長できる環境づくりに取り組み、一人ひとりが主役になれる会社を目指していきます。

働きがいのある職場風土の醸成

テルモでは、アソシエイトの個性を尊重し、一人ひとりの能力が最大限に発揮できる職場風土の醸成に取り組んでいます。また、成長意欲を持つ人には、自らの活躍の場を広げる機会を提供しています。こうした様々な取り組みを基に、アソシエイト一人ひとりの力をチームの力とすることで、仕事の成果を高め、活力のある強い組織づくりを目指しています。

360° アンケート・働きがいアンケートの実施

テルモでは、「自由闊達な、明るい、働きがいのある」風土を目指して、全役員・部門長を対象とした「360°アンケート」と、国内の全アソシエイトへの「働きがいアンケート」を実施しています。各部署の風土を把握するとともに、リーダーがアソシエイト一人ひとりの意見を受け止め、より良い風土を築く「気づき」を得る機会として活用されています。

ACE公募

テルモでは、様々な部門・職種からの人材募集に立候補したアソシエイトが、自分の力で仕事を勝ち取る「ACE公募(社内の公募制度)」を1997年から行っています。公募対象は、高い専門性を必要とする製品の営業職からIT活用による業務改革のメンバーまで幅広く、2007年から始まったグローバル(海外駐在員)候補の公募では、これまでに33名が審査を通過し、すでに半数以上が実際に海外に赴任しています。2012年度は合わせて85名の応募があり、審査を通過した21名が新たな活躍の場を勝ち取りました。



インドで活躍するACE公募合格者



ACE公募募集マーク

現場の誇り賞

テルモの成長を支えているのは、際立って目に見える業績を残すアソシエイトだけではありません。「日々地道な努力を続けるアソシエイトにも光を当てる」という考えのもと、テルモでは「現場の誇り賞」の表彰を毎年実施しています。

2012年度は、現場で推薦を受けた約100名の中から、工場の電気設備の保守担当者や、医療を支える血液事業で長年信頼を積み重ねてきた営業担当者など5名が受賞しました。



2012年度「現場の誇り賞」受賞者

人材の多様性を生かす(ダイバーシティ)

テルモグループでは、性別・年齢・国籍などにかかわらず、多様なアソシエイトの活躍が、これからの成長エンジンであると考えています。様々な価値観を受容し、お互いの「多様性」を認め合うことで、異なる発想・知恵が自由闊達に混ざり合い、新しい価値を創造する企業を目指しています。

2013年2月には、すべてのアソシエイトの意識をさらに高めるべく、ダイバーシティ推進室を設立しました。

今後はこれまで以上に、様々な観点から全社的な取り組みを進めていきます。

▶ 連結・地域別社員数

	2010年度	2011年度	2012年度
日本	4,962	5,048	5,011
欧州	1,732	1,837	1,892
米州	2,341	5,177	5,656
アジア他	5,726	6,050	6,334
合計	14,761	18,112	18,893

(人)

▶ 社員の構成(テルモ株式会社単体)

	2010年度	2011年度	2012年度
男性	4,051	4,123	4,065
女性	655	664	656
海外現地スタッフ	135	144	57
合計	4,841	4,931	4,778

(人)

女性の活躍支援

テルモでは、多様性を認め合い、企業の成長につなげていく第一歩として、経営トップが、女性の活躍を推進していくことをコミットしました。

2012年度は、女性がさらに活躍できる環境・風土・意識を整えていくために、「メンター制度」「ロールモデル紹介」など、様々な取り組みを進めてきました。

メンター制度：職場や世代の異なるアソシエイトがペアを組み、様々な経験や考え方を共有しながらお互いの視野を広げ、成長につなげるための制度です。女性アソシエイト自身の意識やスキルを高め、組織を率いるリーダーとして活躍する人が増えることで、新しい視点、新しい価値の創造に貢献できると考えています。

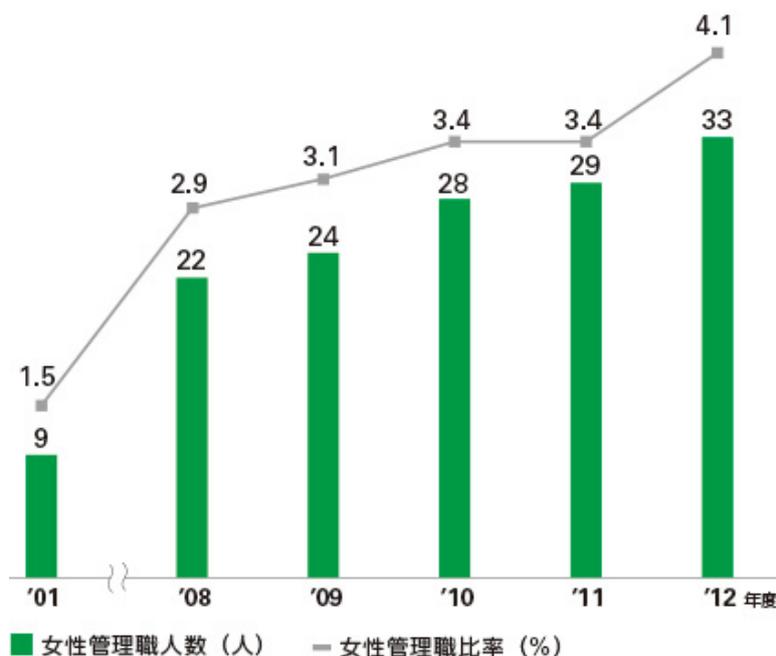
ロールモデル紹介：社内イントラネット上で「自分UP！WOMEN」というコーナーを設け、様々な分野で活躍している女性アソシエイトを紹介しています。仕事もプライベートも前向きに自分を高める姿は、男女問わず多くのアソシエイトにたくさんの元気を与えています。

2012年度は、社外で活躍する女性起業家を招いて講演会を開催するなど、女性のキャリアアップ意識を刺激するプログラムを実施しました。

テルモの女性管理職は徐々に増加して、2013年3月末現在、33人(4.1%)となっています。今後も成長意欲の高い女性アソシエイトが、さらに活躍できるような取り組みを進めていきます。



2012年度「女性メンター制度」集合研修風景



女性管理職人数および比率(テルモ株式会社 国内単体)

Voice 海外で活躍する女性アソシエイト

2006年に入社して以来、組織と共に成長するだけでなく、世界中のアソシエイトに影響を及ぼすような責任ある仕事を経験し、自身のキャリアを磨く機会を得てきました。

当初はテルモメディカル社のカテーテルビジネスにおける臨床学術部門のマネージャーとしてスタートしましたが、今では臨床学術部門長として5名のスタッフと共にアソシエイトの教育を担当しています。

そこでは、血管・泌尿器系に関わる全ての臨床研修を網羅しており、販売研修はもちろん、テルモカテーテルグループ本部と共にグローバルな研修基盤を構築しています。

更に、私たちが実施している全米の医師へのトレーニングプログラムは非常に有益な研修であるとの評価を受けており、これらの活動は医師に対するより良い医療の提供とともに、患者様の治療に大変役立っていると確信しています。

私は、組織を横断して多くの機会を得て、またチームの皆さんに支えられながらリーダーとして成長しているのを実感しています。そして私たちのチームが作り上げた価値は、世界の心臓血管市場におけるテルモの価値創造に繋がっていると信じています。

プロフェッショナルな女性として成長できる機会を与えてくれたテルモには大変感謝しています。

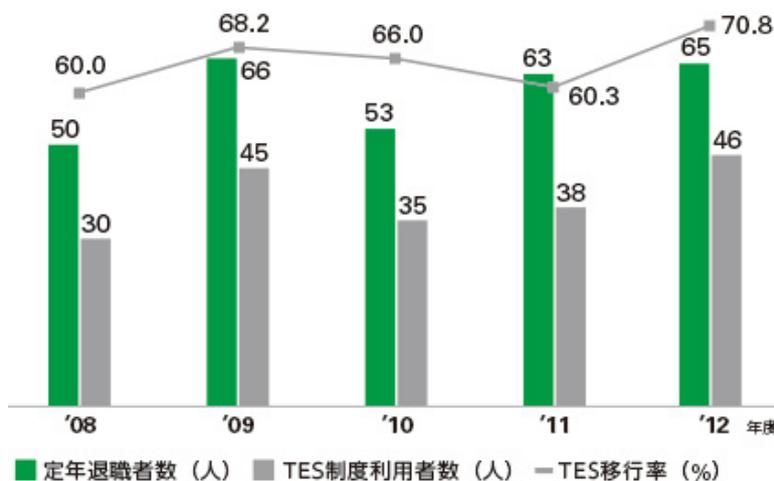


Director of Professional and Clinical Education – Terumo Medical Corporation

TES (テルモ・エキスパート・システム)

テルモでは、アソシエイトが定年後も優れたスキル・ノウハウを発揮するための「定年退職者再雇用制度 (TES: テルモ・エキスパート・システム)」を1998年度から導入しており、現在も多くの方が、長年培ってきた専門力を発揮して活躍を続けています。

その活躍は専門分野のみならず、若手アソシエイトへの指導や助言など、様々な場面でベテランの豊かな経験が会社を支える力となっています。



TES制度利用者数および移行率

障がい者の雇用

テルモでは、一人ひとりの能力や適性に応じた活躍の場を提供することで、自立した社会生活を送ることができるように、障がい者の雇用促進に努めています。

障がい者雇用率は、2013年3月末現在で2.06%と法定雇用率(1.80%[※])を超えていますが、これからも一人ひとりの能力を最大限に発揮できる機会を拡大していきます。

※ 2013年4月1日以降2.00%へ引上げ

ワーク・ライフ・バランス

テルモでは、誰もがイキイキと働き、能力を発揮することができるよう、アソシエイトの多様なワーク・ライフ・バランスの向上に向けて、「時間と場所の融通性拡大」をキーワードに、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入しています。

特に、育児や介護などのライフイベントに応じた制度は、アソシエイトの仕事と家庭生活の両立を支援するものとして、必要に応じて随時拡充しています。

育児・介護支援制度

▶ 育児・介護支援制度の一例

	制度	内容 ^{※1}
育児	育児休業	子が3歳に達するまでを上限に休業取得が可能 育児休業開始期には、失効有給休暇を最大30日利用可能
	育児短時間勤務	子が「小学校卒業」までの間、1日最大2時間の就業時間短縮が可能
	育児時差勤務	子が「小学校卒業」までの間、1日最大1時間の就業時間繰上げ・繰下げが可能
介護 ^{※2}	介護休業	要介護者1人につき、通算で最大3年まで休業取得が可能 介護休業開始日より前に、失効有給休暇を最大30日充当可能
	介護短時間勤務	通算で最大3年間、1日最大2時間の就業時間短縮が可能
	介護時差勤務	通算で最大3年間、1日最大1時間の就業時間繰上げ・繰下げが可能
その他	時間単位有休	取得事由を問わず、1時間単位で柔軟に休暇取得が可能

※1 掲載内容は、一部抜粋です。

※2 介護休業・介護短時間勤務・介護時差勤務は合計で通算3年間を最大としています。

最近では育児休業を取得する男性アソシエイトも増えてきました。子どもの誕生は、自らの働き方を考える絶好の機会となります。こうした制度を利用しているアソシエイトの体験談を社内イントラネットで取り上げることで、制度を周知させ、育児に参加しやすい雰囲気づくりも行っています。

▶ 産休および育休の取得者数(テルモ株式会社 国内単体)

		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
産休取得者数		20	21	22	19	22
育休取得者数	女性	25	20	22	28	27
	男性	0	1	8	7	9

(人)

▶ 在宅勤務制度

テルモでは、アソシエイトが育児・介護などの理由で出社困難な日は、自宅での勤務も選択肢の1つとして検討できる「在宅勤務制度」を導入しました。

育児や介護のために通常の勤務が難しい状況にあっても、アソシエイトの持つスキルやノウハウが最大限に発揮できる選択肢の拡大を今後も進めていきます。

■ キャリアリターン制度

テルモでは、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤により退職したアソシエイトに再雇用の道を開き、再びテルモで活躍することを支援する「キャリアリターン制度」を導入し、働き方の選択肢を広げています。

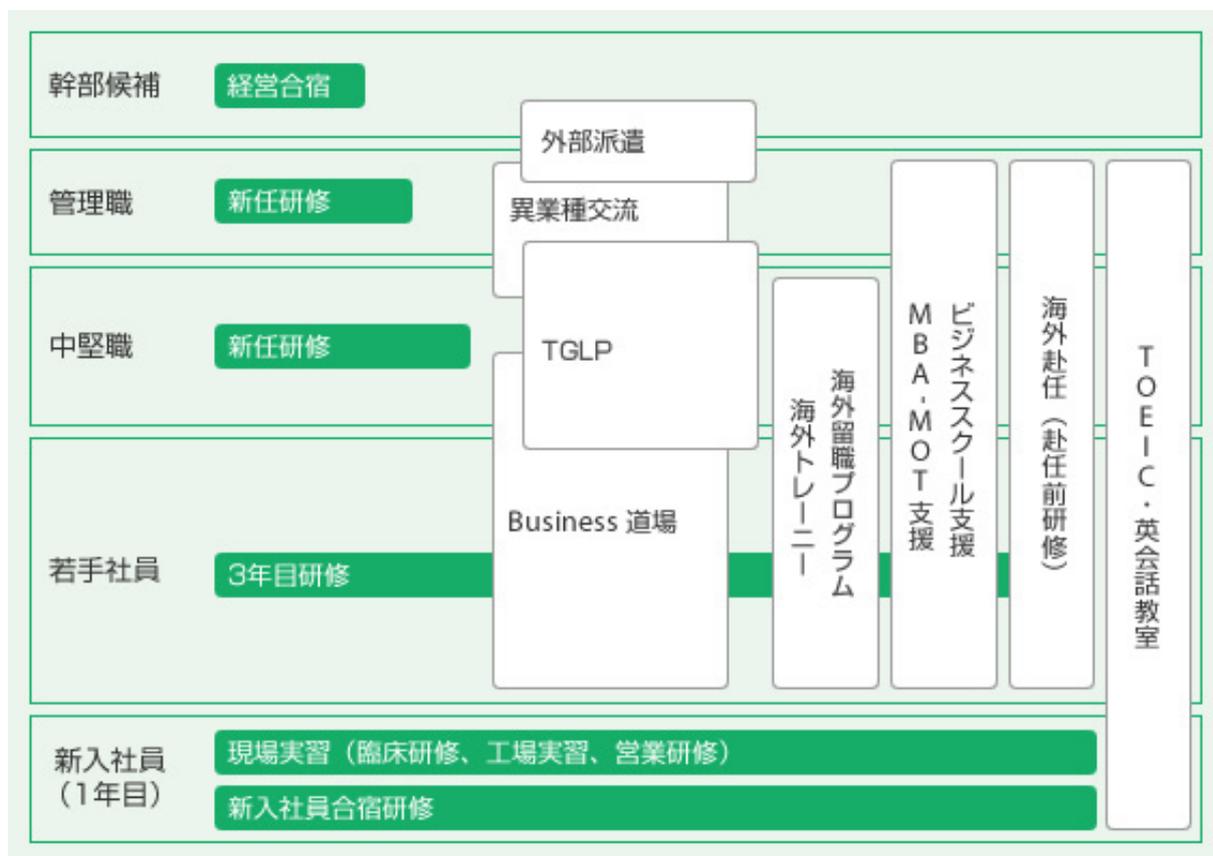
一旦キャリアを中断せざるを得なかったアソシエイトのスキル・ノウハウを復職が可能となった時点で再び発揮してもらうことで、多様な経験とそこから生まれた価値観を生かせるようにしています。

一人ひとりの価値を高める

テルモでは、アソシエイトの価値の総和が、企業の真の価値であると考えています。

人材の育成は、仕事の実践を通じたOJT(On the Job Training)を前提とし、それを補完する役割として各種の研修が構成されています。

また、「最大の学習効果は、自ら興味を持ち、学ぶ必要性を感じたときに発揮される」という考え方から、テルモでは多くの研修が自ら立候補して臨む自発的なスタイルとなっています。



テルモ研修体系 概略図

グローバル人材育成

テルモグループでは、これからのグローバル化推進に向けて、異文化を理解し多様性を踏まえたコミュニケーション能力とリーダーシップを併せ持つ、志の高い人材育成を重要な方針に掲げています。

▶ TERUMO Global Leadership Program (TGLP)

「TGLP」では、グローバル経営を牽引する実践力のあるリーダーの育成を目的に、約100名の応募者の中から24名(20～40代)が選抜されます。5か月間にわたるセミナーでは、経営課題の本質を見極め、グループで調査・検討するだけでなく、関連部門のアソシエイトとも議論を重ね、実践に結びつくプランを経営陣に提案します。



2012年度 TGLP風景

▶ グローバルビジネスに通じる研修の提供

グローバルに通じるビジネススキルの習得やビジネス経験を体得する場として、将来、海外で仕事をする強い意志とプランを持つ若手のアソシエイトを対象に「グローバルチャレンジ」や「海外留職プログラム」を提供しています。

「グローバルチャレンジ」では、2012年度、グローバルビジネスのシチュエーションを想定して、ビジネススキルの実践力を高めるプログラムや経営課題をテーマにしたディベートセッションなどを実施し、すべてのセッションが英語で行われました。

「海外留職プログラム」は、新興国が抱える社会課題の解決に向け現地組織と連携し、留職者として実際にアソシエイトを派遣して、テルモの本業のスキルを生かした改善・解決策を実行する取り組みです。2012年度は、インドネシアの低所得者層向けクリニックを運営するNGOに約2か月間滞在し、日本のアソシエイトとの連携も図りながら、現地の課題解決にあたりました。



2012年度 グローバルチャレンジ風景



2012年度 海外留職プログラム風景

MBA等取得支援制度

テルモでは、今後のグローバル経営に向けた人材育成のため、国内外において自主的にMBAなどの資格取得を目指し、自己成長を果たそうとする人材を支援する制度を設けています。

対象者には、就学に必要な期間の休職を可能とし、休職開始前には過去に失効した最大100日の有給休暇を利用できるようにしています。また会社が認めた場合には、学費や休職期間の生活費を会社から無利息で借りることができる仕組みや、さらに一定の条件を満たした場合は、入学金や授業料の一部を会社が支援する仕組みも導入しています。

知識やスキルの習得だけでなく、アソシエイトが異業種の仲間と交流し、異文化に身を置くといった貴重な経験をすることを重視しています。

【Topics】 海外工場での人材育成の取り組み

テルモベトナム社は、操業開始から7年が経過し、2012年度にはハノイ市やベトナム労働総同盟からベトナムに貢献している優良企業として表彰されるまでに成長を果たしました。

この間、テルモベトナム社にとって最も重要な課題は「人材育成」だったと言っても過言ではありません。品質確保・安全作業など生産業務の基礎能力を高めるため、日本を始め中国やイギリスなどの各工場から学んできた初期の段階から、現在は現地幹部候補の社員が「マネジメント」のテーマを率先して取り組むまでに至っています。

最近ではテルモグループ全体とテルモベトナム社の中長期計画あるいは生産移管計画など、経営に密接した課題を直接経営陣から説明を受け、そこから各々が果たすべきミッションについてディスカッションを繰り返し、自らの目標をコミットメントしていく研修を行いました。今後の更なる発展に向け、参加者各々が、主体的に取り組むべきであることを強く認識する機会となりました。

これからもアソシエイトの成長を支えることで、テルモベトナム社の発展を実現させていきたいと考えています。



社会貢献活動

Social Contribution Activities

病気の予防に役立つ情報を提供

テルモ体温研究所

「テルモ体温研究所[※]」では、テルモ創業の原点である身近な「体温」を日々の健康管理に役立てていただけるよう、専門の先生方と連携しながら調査研究や啓発活動を進めています。調査研究では、体温計測に関わる実態調査や次世代の体温測定に向けての探索などを行っています。啓発活動では、「体温と生活リズム」をテーマに小中学校の生徒や保護者、教職員の皆様に向けて公開授業・セミナーを行っています。2012年度は、約20か所で公開授業・セミナーを開催し、生活リズムの乱れによる体温への影響や、体温の正しい測り方についてお伝えしました。文部科学省と「早寝早起き朝ごはん全国協議会」が推進するプロジェクトにも加盟し、生活習慣の改善について啓発しています。ウェブサイトでも、発熱やその対策、熱中症、高齢者や乳幼児の体温など、様々な情報を発信しています。また、女性の健康ウェブサイト「基礎体温でカラダと話そう」では、基礎体温や女性ホルモンの知識など、女性のカラダづくりのための情報を発信しています。

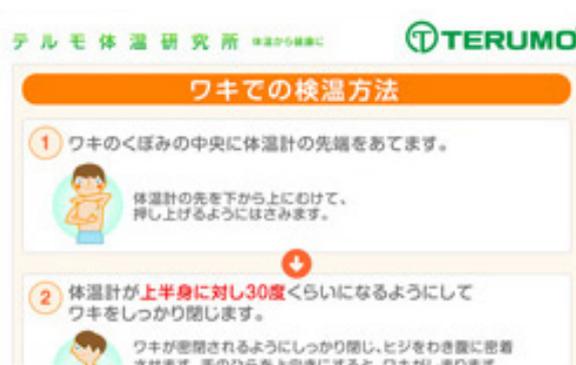
※ テルモ体温研究所：体温から健康を考え、体温情報の提供や新しい健康生活を提案するテルモの研究所。

web 「テルモ体温研究所」

web 「基礎体温でカラダと話そう」



ウェブサイト「テルモ体温研究所」



正しい検温方法を啓発

「下肢静脈瘤市民セミナー」を開催

下腿のむくみは、足の疲れやだるさの原因となるだけでなく、下肢静脈瘤発症の大きな要因の一つです。テルモでは、下肢静脈瘤の早期発見の啓発と症状改善や進行予防を目的として、地域の方々へ医療情報を提供するセミナーを開催しています。セミナーでは、下肢静脈瘤専門の先生方を講師としてお招きし、原因や治療法など専門性の高い情報を分かりやすくお伝えしています。また、治療の際に使用される弾性ストッキングの適切な装着方法について実演を交えて解説し、弾性ストッキングの不適切な使用によるトラブルの予防に役立つ情報をお届けしています。



下肢静脈瘤市民セミナーの様子

医療の発展への貢献

テルモ科学技術振興財団

当財団は1987年に設立されましたが、2012年4月1日の登記により新しい財団として再出発しました。財団には三つのミッションがあります。

一つは研究助成事業で、生命科学に関わる研究を中心に助成や振興を図ることを目的にしています。2012年度の特定研究として「Body on a chipを用いた創薬スクリーニングの開発」など3件、一般研究として19件、国際交流として26件に助成を行いました。2013年3月には助成者が一堂に会する中、贈呈式を行いました。これまでの助成は計845件、助成額は約13億円になります。

二つ目は褒賞およびその関連事業ですが、財団設立25周年記念として、第1回「テルモ国際賞」授賞式を2012年7月に行いました。これはバイオマテリアル研究を通じて再生医療分野の発展に寄与した研究者を表彰するもので、受賞者は米国マサチューセッツ工科大学のロバート・ランガー教授が選ばれました。また、新設した財団賞の表彰も行い、同時に受賞者による講演会も開催しました。

三つ目は普及啓発事業で、2009年に教育啓発活動の一つとして開設した中高生向け生命科学情報ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」の運営を行っています。年間アクセス数も毎年増えています。2012年8月には、東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島の3県の高校生30名を東京女子医科大学-早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設に招待して、最新の再生医療、シミュレーターなどの実習を行うサイエンスカフェを開催し、参加者には大変好評でした。さらに2013年3月に内閣府からの要請で、京都で開催された「科学・技術フェスタ」に出展し、中高生に対して再生医療の状況や財団の取り組みを紹介したほか、最後には参加者と先生方とのパネルディスカッションを行うなど有意義な場となりました。2013年度も2012年度と同様の事業を計画しています。

web テルモ科学技術振興財団



国際賞授賞式



サイエンスカフェ・細胞シート作製実習の様子

地域社会への貢献

ホスピスへクリスマスの贈りもの

テルモ湘南センターでは、クリスマスの時期にアソシエイトが自主的にチームを組んで、同センターの外壁にイルミネーションの飾り付けを行っています。また、クリスマスイブには地域とホスピスの皆様に打上花火を、そしてホスピスではテルモ男声合唱団から歌声のプレゼントもお届けしました。この企画は、同センターの向かいにあるホスピスに入院されている患者さんやそのご家族、地域住民の方々にクリスマスを楽しんでいただきたいとの思いから、1997年より毎年実施しているものです。2012年もクリスマスツリーをはじめとする数種類のイルミネーションをお楽しみいただきました。



歌声を届けるテルモ男性合唱団



イルミネーション

各地域での活動

テルモでは、地域への身近な社会貢献の一環として各事業拠点で様々な活動を行っています。

- 本社隣接の公道・公園の清掃(毎週実施)
- 中央区清掃活動(毎年5月に実施)
- 多摩川河川敷のごみ拾い活動(毎年春と秋に参加)
- 湘南センター周辺のクリーンアップ活動
- 富士宮工場周辺のクリーンアップ活動
- 愛鷹工場、MEセンター周辺のクリーンアップ活動
- 営業支店周辺のクリーンアップ活動

※ 2012年度実績

エコキャップ回収の取り組み

テルモでは、「NPO法人エコキャップ推進協会」で実施しているエコキャップ運動に参加しています。この運動は、ペットボトルのキャップを分別回収して再資源化する一方、その売却益で発展途上国の子どもたちへワクチンを贈る運動です。2012年度に回収されたキャップは590人分のポリオワクチンに相当します。



社内での取り組みの様子

献血活動

テルモでは、各事業所や支店など、それぞれの職場で献血を行っています。2012年度は全国23か所の事業所、支店で計1,173名の協力がありました。商品の一つである献血用バッグの生産だけでなく、実際の献血活動を通じた貢献も継続していきます。



社内での献血活動の様子

海外での活動事例

▶ テルモペンポール社 地域への支援活動

インドのテルモペンポール社では、2005年より地域の公立小学校への支援活動を続けています。書籍やかばん、文具などの寄贈から、図書館、教室、実験室、トイレなど設備面の支援も行っています。

2009年にはテニスコートを小学校に設置し、ミニテニスのトーナメントを主催しています。“Quick Start Tennis”として、地域の子どもたちにスポーツ面での支援も行っています。これらの活動は、地域の子どもたちの教育環境の改善と社会参加の機会増加につながっています。



小学校での贈呈風景

▶ 各国での活動

海外のテルモ各社では、それぞれの地域で社会貢献活動に参加しています。

テルモアメリカスホールディング社／テルモメディカル社

「小児糖尿病研究財団(JDRF)」に協賛しています。毎年開催される糖尿病の子どもたちの健康維持に向けたウォーキング大会には、12年にわたり「チームテルモ」を組んで、毎年参加しています。



ウォーキング大会に「チームテルモ」で参加

テルモカーディオバスキュラーシステム社

米国がん協会が主催するウォーキング大会への参加、地域の方々へ食事や衣服などを提供する活動を継続しています。

テルモイタリア社

“Italia ProNepal”というプロジェクトに参画して、カレンダーの作成などを行い、その収益金でネパールの子どもたちへの医療や基本的な物資の支援を行っています。

特集：人にも環境にもやさしい企業を目指して

Promoting Environment-Friendly Business Activities



「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」の制定

2012年10月に「環境基本方針」を改訂し、事業活動に伴う環境負荷の低減や生物多様性の保全、働く人々の安全衛生に関する基本的な姿勢を定めた「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」を制定しました。この方針はテルモグループ全体に適用され、すべての活動の基本となります。

テルモ グローバル環境・安全衛生方針

私たちテルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、事業活動に伴う環境負荷の低減と、働く人々の安全・健康の確保に努め、よき企業市民をめざします。

1. EHS※(環境・安全衛生)マネジメントシステムに基づいて活動を展開し、次の自主目標を定め、継続的改善に努めます。
 - 事業活動が環境・安全衛生に与える影響・リスクの削減
 - 環境と安全に配慮した商品開発
 - エネルギーや資源の有効活用と適正管理
1. 各国の環境・安全衛生に関する法律、条例、協定等を遵守します。
1. 社会や地域の一員として環境保全活動を推進し、生物多様性の保全に努めます。
1. あらゆる事業活動において、働く人々の安全と健康の確保に取組み、安全で快適な労働環境の形成に努めます。
1. 環境汚染、労働災害などの事故の防止に努めると共に、緊急時には迅速かつ適切に対応し、被害の拡大防止に努めます。
1. 教育訓練を計画的かつ継続的に実施し、環境・安全衛生に対する意識の向上に努めます。
1. 環境・安全衛生活動に関する情報を積極的に開示し、社会や地域とのコミュニケーションに努めます。

制定 2012年10月

※ EHS: Environment, Health and Safetyの略

EHS (環境・安全衛生) マネジメントシステムの整備

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」(EHS方針)の制定に伴い、環境と安全衛生を統合したEHSマネジメントシステムの整備・構築を進めています。EHS方針、目標、活動計画などは、サステナビリティ経営の重要課題の一つとして「環境安全委員会」において審議・決定され、各事業所のEHS活動に反映されます。「EHS専門部会」は、個々の重要テーマごとに選出された専門家により構成され、「環境安全委員会」に助言を行う諮問機関としての役割を担っています。また「EHS監査委員会」は、各事業所に対して内部監査を行い、システムの有効性や運用状況、関連法規の遵守状況を確認しています。今後はテルモグループEHSマネジメントシステムとして継続的な改善に取り組むとともに、既にテルモヨーロッパ社などで取得している環境マネジメントシステム国際規格ISO14001と労働安全衛生マネジメントシステム国際規格OHSAS18001を他の生産拠点でも順次取得していきます。



EHSマネジメントシステム 全社推進組織

【Topics】 テルモペンポール社でISO14001 / OHSAS18001 認証取得

テルモペンポール社(インド、ケララ州)では品質マネジメントシステムの拡充・向上をめざして、環境マネジメントシステム(EMS)と安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を統合したIMS(Integrated Management System、統合マネジメントシステム)を構築、2013年5月にISO14001(EMS)とOHSAS18001(OSHMS)の認証を取得しました。
マネジメントシステムの構築は2011年9月から始まり、全部署のメンバーで構成されるコアチームを結成して教育訓練や内部監査を実施しました。



Quality Systems Department Management Representative
— Terumo Penpol Ltd.

労働安全衛生の取り組み

テルモグループでは、誰もが安心して働ける職場があって初めて、会社の大切な資産であるアソシエイトが能力を最大限に発揮できると考えています。

労働災害を未然に防ぎ、万一発生した場合でも、被害を最小限に抑えるよう、職場環境の安全衛生を確保する取り組みを続けています。

労働安全衛生管理体制

テルモでは、アソシエイトの安全を守るため、工場、研究開発本部、営業拠点、本社の各事業所で、労働安全衛生管理体制を整え、委員会を開催しています。労働災害ゼロを目指し、5S活動をはじめとして、危険箇所の点検や未然に危険を防ぐための取り組みを行い、委員会などへ報告することで情報を共有しています。

2012年度の休業労働災害件数は3件(2011年度：2件)でした。今後も、死亡・重大労働災害ゼロと労働災害件数の削減を目指していきます。

▶ 休業労働災害件数・度数率^{※1}・強度率^{※2}

	2010年度	2011年度	2012年度
休業労働災害件数	2	2	3
度数率(%)	0.66	0.97	1.68
強度率(%)	0.00	0.00	0.01

※1 度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの

※2 強度率：1,000延べ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表すもの

従業員の健康管理

テルモでは、アソシエイトの健康増進を支援するため、定期健康診断に加え、生活習慣病検診の受診促進など、健康保険組合と協力して個別の健康管理指導にも努めています。また、身体面のみならずメンタル面の健康も保つため、新入社員・一般社員にはストレスケアの研修、リーダー職の社員にはメンバーのケアやマネジメント方法の研修など、対象に応じた様々な研修を実施しています。

アソシエイト向け環境安全研修

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」やテルモの一員として行うべき環境安全活動への理解を深めるため、新入社員研修をはじめ、営業拠点や工場などそれぞれの業務内容の特性に合わせた研修を実施しています。また、環境や安全衛生に対する意識を高めて行動することを目的として、社内イントラネットで環境安全衛生情報を配信するとともに、家族を含めて参加できるエコキャンペーンを実施しています。



新入社員研修

環境安全表彰制度 — Terumo Human×Eco® Award —

「環境」「安全衛生」に貢献した組織をテルモグループ全体で評価し、環境安全活動の活性化・共有化を図る目的で環境安全表彰制度「Terumo Human×Eco® Award」を2012年度に創設しました。2012年度は下記の部門を表彰しグループ全体で事例の共有を行いました。



表彰の様子

件名	受賞部門
輸液ライン窒素および高圧エア使用量削減による省エネ化(二酸化炭素排出量削減)	富士宮工場
NN組立工程内作業環境改善への取り組み	甲府東工場
節電による二酸化炭素排出量および経費の削減	株式会社医器研

環境・安全に配慮した商品

Developing Environmentally Friendly Products

「人にやさしい医療」と「環境にやさしい医療」の実現を目指し、医療従事者や患者さん、そして地球環境にもやさしい製品の開発に取り組んでいます。

Human×Eco[®] (ヒューマン・バイ・エコ)開発指針

テルモは、企業ビジョンとして「人にやさしい医療」の実現を目指しています。「人(Human)にやさしい医療」とは、患者さんの身体への負担を少なくする、感染を防ぐ、医療従事者が使いやすいものを提供することなどを通じて、医療の安全性・効率性を高めていくことです。

このことは同時に「環境(Eco)にやさしい医療」にもつながります。ひとたび感染や医療事故が起これば、その対応に本来は必要のない医療資源が使われることになります。安全で効率性の高い製品を開発することは、医療現場におけるEcoへの貢献でもあると、私たちは考えています。

テルモでは、人にも環境にもやさしい製品開発を進めるための独自の基準「Human×Eco[®] 開発指針」(4つの原則と24項目の指針)を策定し、製品の開発にこの基準を適用しています。特に優れた商品には、自社認定マーク(「Human×Eco[®]」マーク)の表示をすることで、お客様にも分かりやすくお伝えしています。

Human×Eco[®] 開発指針 [4つの原則]



有害物質対策

脱水銀の先駆けとして

テルモは1983年に、国産初の予測式電子体温計を発売しました。翌年、環境面に配慮し、水銀体温計の生産をいち早く終了しました。その後も水銀を使わない電子血圧計を発売するなど、さらなる脱水銀化に努めています。



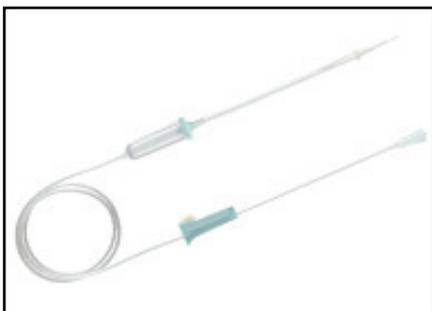
電子体温計



電子血圧計

脱塩ビとDEHPフリーを推進

焼却時に有害ガスが発生するとされる塩化ビニル樹脂(PVC)については、包装への不使用を進めています。また、生体への影響が懸念されている可塑剤DEHPについては、他の可塑剤に代替した商品を供給(代替可能な場合)しています。



輸液セット



輸液剤バッグ



人工心肺回路

省資源／ゴミ削減

柔軟性・携帯性 – 世界100か国に広がる血液バッグ

輸血の安全性向上を目指し、1969年に国産初の血液バッグを発売しました。採血チューブと容器を一体化したプラスチック製のバッグは、ガラス製のものに比べて柔軟性・携帯性に優れ、輸送時のコスト、廃棄容量ともに削減できます。



血液バッグ

幅広いタイプの治療に対応 – PTCA用バルーンカテーテル※

素材やバルーンのたたみ方などを改良し、幅広いタイプの治療に対応できるPTCA用バルーンカテーテルを開発しました。患者さんにこれまでより少ない本数で治療することが可能となり、省資源化に貢献しています。

※ PTCA用バルーンカテーテル：カテーテルの先端に装備したバルーン(風船)を膨らませて血管を押し広げ、狭まった血液の通路を拡張するために使用する医療機器。



PTCA用バルーンカテーテル

軽量・小型化

シリンジ(注射筒)を、容量・機能性はそのままに、軽量・小型化しました。廃棄時の重量で25%減を実現しています。小型化することで輸送時の環境負荷やゴミの排出量を削減。在宅医療で使用する腹膜透析液バッグでは、家庭での廃棄物削減を考慮して40%減の軽量化を実現しています。



シリンジ



腹膜透析液バッグ

パッケージ化と廃棄重量・容量削減

手術に必要な商品一式をパッケージ化したソリューションパック。包装資材の重複や管理の無駄をなくしました。また、常にパッケージの方法や形状などを工夫し、トレイの形状変更で廃棄時のかさを小さくする(当社従来品比約53%削減)など、さらなる廃棄重量・容量の削減を実現しています。



「Human×Eco®」認定商品 血管造影キット

一体化 - 水分調整の手間を省く、とろみ付き栄養食品

水分や粘度の調整に使用していた栄養ボトルが不要となり、ボトル洗浄の手間や廃棄物を削減することが可能となりました。また、水と「とろみ栄養」を一つにすることで、医療従事者や介護者の負担を軽減しました。



「Human×Eco®」認定商品
とろみ付き栄養食品

一体化 - 複数の薬剤をワンバッグに

使用前に薬剤の混注が必要な輸液剤をワンバッグ化しました。複数の薬剤を一体化することで、混合作業の簡便化や、従来の混注作業に起因する異物混入や細菌汚染、針刺し事故などがなくなることが期待されます。また、混注時に使用するバイアル瓶・注射器が不要になり、資源の削減とともに医療現場の廃棄物削減につながります。2012年度からは、複数容器の隔壁開通忘れを防止する未開通投与防止機構を付加したタイプも発売しています。



輸液バッグ

■ 一体化 - プレフィルドシリンジ

あらかじめ注射器に薬剤を充填したプレフィルドシリンジでは、アンプル剤やバイアル瓶からの薬剤の吸引・溶解などの作業が不要になり、医療現場での廃棄物削減に貢献します。また、作業性の向上はもちろんのこと、菌や異物の混入を防ぎ、薬剤の取り違いや針刺し事故の防止にも寄与します。プラスチック製なのでガラス製に比べ割れにくく、重量や分別などの点で廃棄性にも優れています。



プレフィルドシリンジ製剤

■ 一体化 - 動脈フィルター一体型人工肺

人工肺と動脈フィルターを一体化したことで、血液回路の部品点数および原材料を削減しました。



人工肺

使い勝手／安全性向上

■ 患者さんのユーザビリティ向上 — 音声ガイド機能付き血糖測定器

大きく見やすい液晶画面に加え、測定結果やエラーメッセージなど必要な情報を音声でもお知らせする機能を搭載しました。また、各ボタンには手で触って区別が付きやすいよう凸点をつけてあり、視力の低下や手指の感覚が鈍るなど血糖測定器の操作を不自由に感じる糖尿病患者さんがより使いやすいように工夫をしています。2012年度グッドデザイン賞を受賞しました。



血糖測定器

抗がん薬曝露リスクを考慮 - 閉鎖式調製・投与器具

抗がん薬には、制がん作用がある反面、細胞毒性、変異原性あるいは発がん性を有するものも多く、薬剤被曝による取り扱い者の健康上の危険性が報告されています。閉鎖式調製・投与器具(ケモセーフ®)を使用することで、薬剤の調剤から投与、廃棄まで一貫して閉鎖的な環境で抗がん剤を取り扱うことが可能です。また、抗がん薬の調製時に針を使用する必要がないため、針刺し事故防止など医療従事者の安全性と抗がん薬曝露リスクの低減を考慮したシステムです。



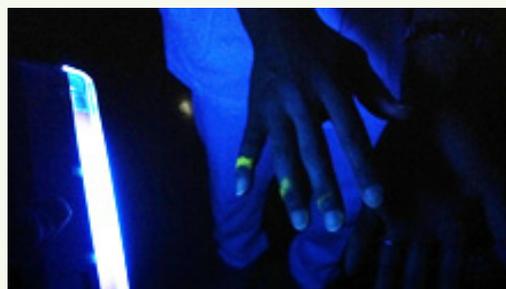
閉鎖式調製・投与器具

【Topics】「リスクを可視化」し、安全対策の必要性を訴求 —ケモセーフ® ハンズオンセミナー—

抗がん薬は、がん細胞を抑制・死滅させる薬ですが、直接触れると皮膚発疹やがんの発症などが危惧されます。抗がん薬の調製・投与時に抗がん薬が飛散することがありますが、透明な抗がん薬が多いので臨床現場では飛散していることに気付かないことがあります。セミナーでは、蛍光剤を模擬抗がん薬に見立て、従来の方法の針とシリンジを使って調製を行い、輸液セットで投与する一連の作業の後に、ブラックライトを当てて蛍光剤の飛散の様子を観察することで、曝露リスクを実際に確認していただいています。また、従来の方法で気をつけなければならないことや使用器具の廃棄方法、ケモセーフ®のような新しい閉鎖式器具などについてもご紹介しています。セミナーを通して、より安全な抗がん薬投与環境をお客様に提供しています。



セミナーの様子



蛍光剤での模擬体験

地球温暖化防止

Preventing Global Warming

地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提です。

テルモでは、事業所での省エネルギー活動に加えて、「チャレンジ25キャンペーン」への参加など全員参加型のエコ活動を行い、二酸化炭素排出量の削減を推進しています。

二酸化炭素排出量削減目標

テルモでは、2008年度より中期目標として「2012年度までに二酸化炭素排出量を製品売上高原単位で1990年度比50%削減※」を掲げ、地球温暖化防止に取り組んできました。全事業所で、毎年省エネルギー活動に取り組み原単位改善に努め、1990年度比46%まで削減しましたが、目標達成には至りませんでした。

東日本大震災後の社会要請に応じたピークカット対策と商品の安定供給のため、自家発電設備の稼働を継続したことが大きな要因です。

2013年度以降は新たにテルモグループのグローバル目標を設定し、引き続き地球温暖化防止に努めます。

※ テルモ単体国内事業所

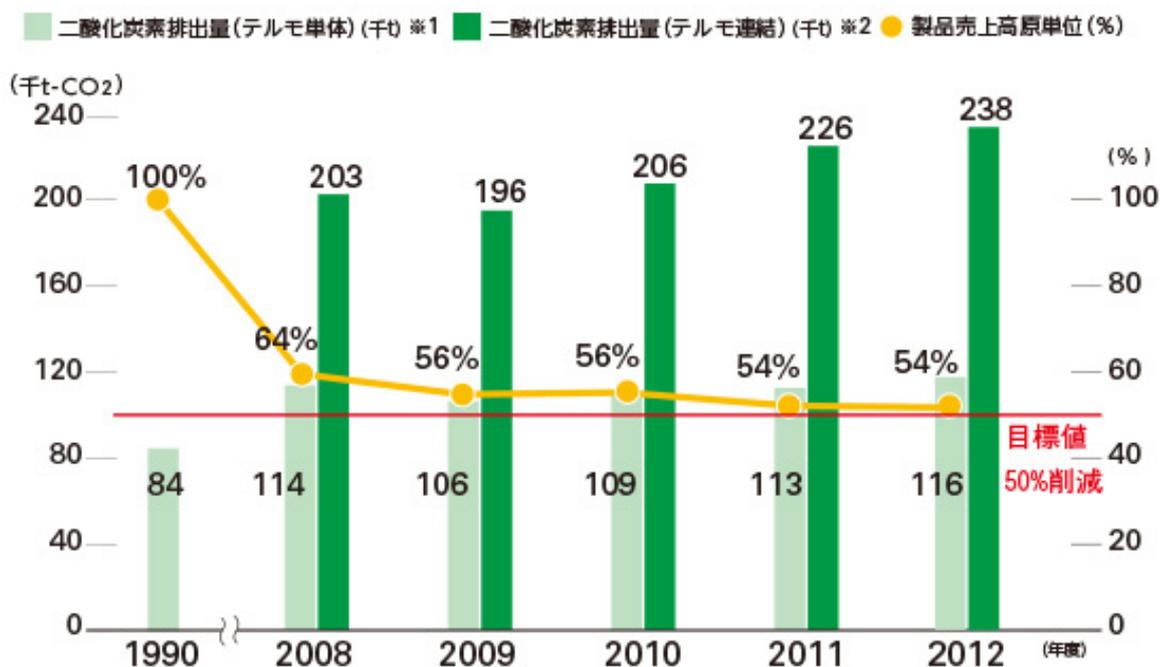
2013年度以降の目標

2025年度までに、国内事業所と海外生産事業所を合わせた二酸化炭素排出量を、連結売上高原単位で2005年度比50%削減する。

2012年度までの目標

2012年度までの目標：2012年度までに二酸化炭素排出量を製品売上高原単位で1990年度比50%削減する。

▶ 二酸化炭素排出量と製品売上高原単位の推移



※1 国内事業所

※2 国内事業所、海外生産事業所

※3 海外の電力のCO₂換算係数は、IEA CO₂ Emissions From Fuel Combustion 2012より2005年の地域別の排出係数を使用。

二酸化炭素排出量削減に向けた取り組み

2012年度は、工場をはじめ本社・研究開発センター・営業拠点などのオフィスも含め、省エネルギー活動に取り組みました。工場・研究開発センターでは、小型貫流ボイラーやターボ冷凍機、LED照明など省エネ機器の導入や効率化運転、蒸気漏れなどの日常点検の徹底により、事業所一丸となって省エネルギー活動に取り組みました。また、日ごろから節電意識を高めるために、社内イントラネット上で事業所の電力使用状況を30分ごとにリアルタイムで確認できるウェブサイトを設置して社内で公開することにより、アソシエイトの節電意識を高めることができました。

オフィスでは、健康とエコを考えた階段の利用促進、適正な空調温度設定、不要な照明の消灯、また効率よく仕事をして早く帰宅することを促すなど積極的に省エネルギー活動に取り組みました。

【Topics】 テルモBCT社の取り組み

テルモBCT社レイクウッド工場(アメリカ・コロラド州)では、環境にやさしい再生可能エネルギーを積極的に導入することで二酸化炭素排出量削減に貢献しています。2010年に780枚(年間発電量183.3kWh)の太陽光パネルを導入しました。2013年3月までに692MWhの電力を発電し、約500トンの二酸化炭素排出量を削減しています。太陽光パネルでの総発電量は、アメリカの一般家庭の年間消費電力量に換算すると約39世帯分に相当します。今後も継続して地球温暖化防止に取り組んでいきます。



テルモBCT社



Sustainability & Environmental Health Safety Manager
Terumo BCT, Inc.

【Topics】 研究開発センターが「電気使用合理化優秀賞」を受賞

研究開発センターでは、空調が占めるエネルギー使用量の割合が高いため、高効率の電気式冷凍機や冷却水ポンプの運転方法を見直して、より効率の良い設定に変更しました。

また、照明のLED化や、事業所内の環境推進委員会の活動を通じて節電を呼びかけ、事業所が一体となって省エネルギー活動に努めた結果、2011年度のエネルギー使用量は前年度比12%の削減となりました。

その活動が評価され、2012年度には関東地区電気使用合理化委員会より「電気使用合理化優秀賞」を受賞しました。



施設チームのメンバー

物流の環境負荷低減への取り組み

商品を輸送する際に使用されるエネルギーの削減は、地球温暖化防止の重要なテーマです。

テルモでは、輸送効率の高い委託輸送や海上輸送などへのモーダルシフトによるエネルギー使用量の削減、物流拠点の統廃合など、物流を効率化する取り組みを行っています。2006年度から物流環境負荷データの把握を開始し、環境負荷低減を進めるために、トラック輸送から海上輸送への切り替えや配送車両の積載効率向上など、荷主として効率的な物流インフラ整備に努めています。

輸液製剤の輸送効率の向上

輸液製剤の輸送時の二酸化炭素排出量削減を目的に、輸送時の積み付け効率を様々な角度から検証し、改善しました。個包装袋のサイズダウンを行うことにより出荷箱を小型化することで、パレット当たりの積載効率が1.5倍に向上しました。今後も継続して積載効率の向上に努め、輸送時の環境負荷を低減していきます。



【Topics】 「チャレンジ25キャンペーン」に参加

テルモは、政府が主催する「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、地球温暖化防止に向けた取り組みを推進しています。「チャレンジ25キャンペーン」では、オフィスや家庭などにおいて実践できる二酸化炭素排出量削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案し、その実践を広く国民に呼びかけています。テルモはこの趣旨に賛同し、オフィスや家庭での地球温暖化防止活動を推進しています。

web 「チャレンジ25キャンペーン」



資源の有効活用

Effective Use of Resources

テルモの事業活動は、地球の限りある資源を活用することで成り立っています。廃棄物の削減や資材の有効利用、リサイクルの向上など資源の有効利用に取り組んでいます。

廃棄物の最終処分量削減に向けて

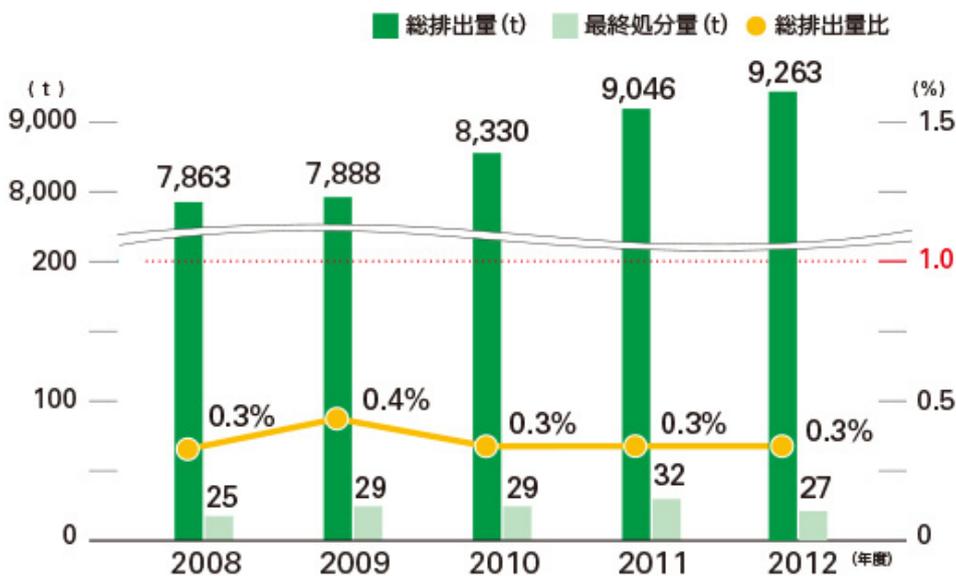
工場や研究開発センター、オフィスでの事業活動では、様々な廃棄物が発生します。テルモでは、「営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量(埋立量)を廃棄物等総排出量の1%未満にする」というゼロ・エミッションを掲げ、分別廃棄の徹底や廃棄方法・廃棄ルールを工夫しています。2012年度の廃棄物最終処分量は廃棄物等総排出量の0.3%となり、9年連続でゼロ・エミッションを達成しました。



廃棄物の最終処分量削減目標

営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を、廃棄物等総排出量比1%未満にする
=ゼロ・エミッションの継続

▶ 廃棄物最終処分量の排出量推移



製造工程における資源有効利用・環境負荷低減への取り組み

テルモでは、生産に伴う原材料使用量や製造時のエネルギー・水消費量の削減、製造工程からの廃棄物削減など、製品を効率よく生産するための取り組みを進めています。

血小板製剤用白血球除去フィルターの製造方法見直し

製造時の環境負荷低減・省資源化を目的に、血小板製剤用白血球除去フィルターの製造方法を見直しました。原材料の利用効率が17%向上し、製造時に発生するフィルター廃棄部材を50%削減しました。また、製造時に使用する洗浄水や廃液、エネルギーの削減に取り組み、製造時の環境負荷低減に貢献しました。



血小板製剤用白血球除去フィルター

包装材削減に向けた取り組み

テルモでは、容器包装の機能を損なわずに、資源を有効利用しつつ、お客様の使い勝手を向上させるため、容器包装の小型・軽量化や薄肉化、形状の見直しなど、包装材削減に向けた取り組みを行っています。

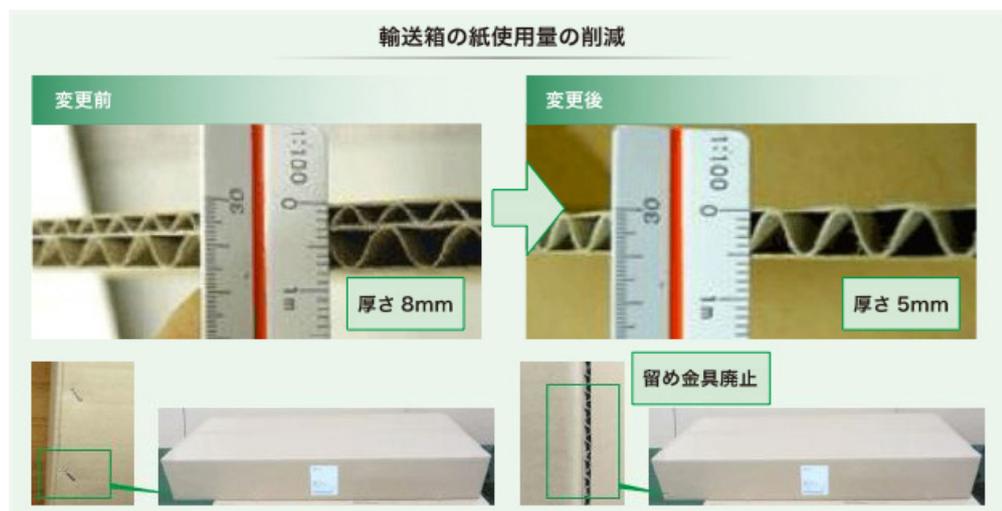
半固形栄養流動食の紙使用量削減

箱の形状を圧縮強度の強い八角形に変更することにより、段ボールの薄肉化と共に仕切りを廃止しました。これにより紙使用量を従来比約53%削減すると共に、仕切り廃止により使用後の段ボールの折り畳みを容易にし、お客様の廃棄スペース削減(段ボール容積:57%減容)を実現しました。また、箱の開閉のためのテープ封緘を廃止することでテープゴミが発生せず、且つ、開封しやすいミシン目形状に変更しました。



輸送用箱の紙使用量削減

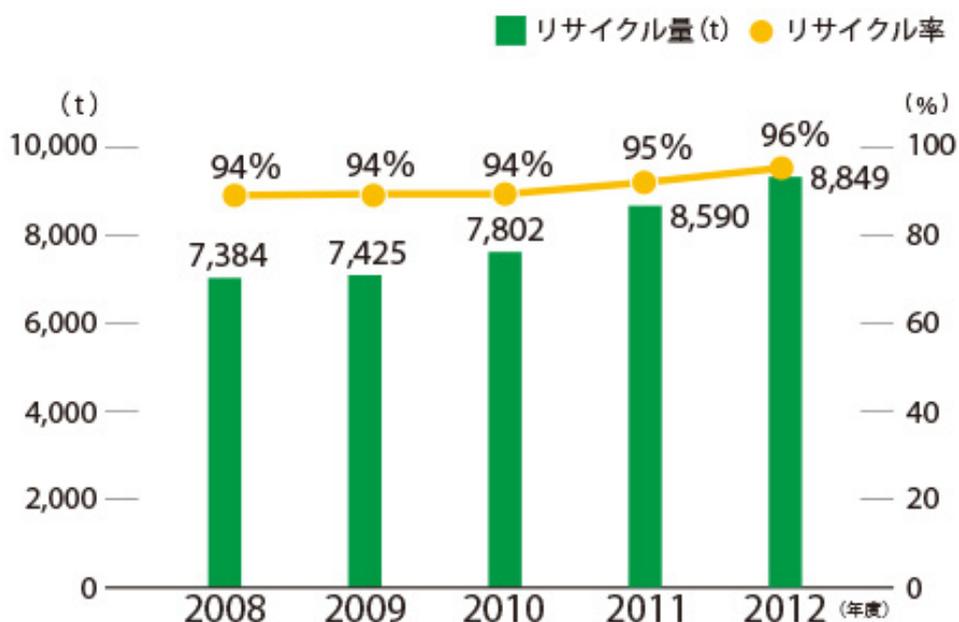
海外向けの製品輸送箱について、輸送時の製品保護のための強度の確保を前提に積み付け強度試験や輸送試験を繰り返し、紙の使用量を削減しました。段ボールの厚さを8mmから5mmに縮小することにより一箱あたりの紙の使用量を約17%削減し、年間約20トンの紙使用量を削減しました。また段ボール接続部の留め金具を廃止し、廃棄性を向上しました。



リサイクルの促進に向けた取り組み

EHS専門部会の事業廃棄物部会を通して事業所間で情報を共有し、アソシエイト全員がリサイクルに努めています。製品の安全性の観点から、廃棄物の社内での再生利用（マテリアルリサイクル）は困難ですが、製造工程やオフィスでの事業活動で発生する様々な廃棄物を分別し、リサイクル会社の協力により、床タイルなどの他のプラスチック製品や、RPF（固形燃料）、有機肥料などにリサイクルしています。2012年度のリサイクル率は96%に達しています。

▶ リサイクル量とリサイクル率の推移



▶ 廃棄物等総排出量の内訳（2012年度）



小形充電式電池のリサイクルに対する取り組み

資源有効利用促進法に基づき、継続して小型充電式電池のリサイクルを実施しています。テルモの商品から出た使用済み小型充電式電池は、小型充電式電池のリサイクルを推進している一般社団法人JBRCにより、回収・リサイクルされています。また、商品廃棄の際に分別しやすいように、リサイクルマークを表示するなどの工夫をしています。小型シール鉛蓄電池についても、メンテナンスによる電池交換の際に回収・リサイクルをしています。



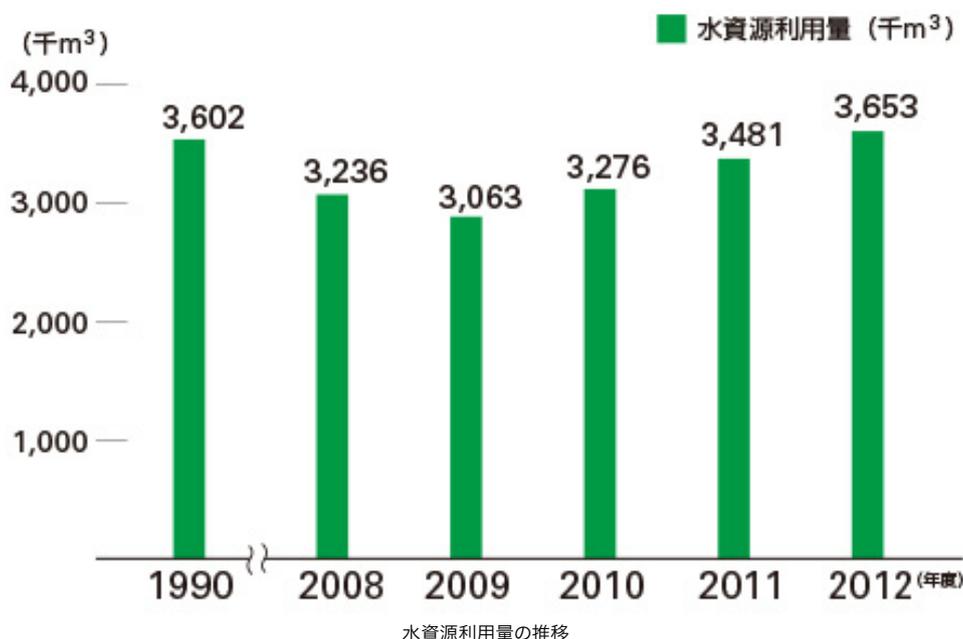
web 「一般社団法人JBRC」

2012年度回収・リサイクル実績(期間：2012年4月～2013年3月)

(単位：kg)			
ニカド電池	ニッケル水素電池	リチウムイオン電池	小型シール鉛蓄電池
4,613	1,155	117	1,011

水資源の有効利用

テルモでは、水資源有効利用のために冷却水の循環利用、水資源使用の最適化を行っています。今後も引き続き生産量の増加を見込んでいますが、水資源の有効利用に取り組んでいきます。



化学物質の適正管理

Proper Control of Chemical Substance

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」に基づいて自主目標を定め、化学物質の使用・排出・廃棄について把握・管理しています。

EHS専門部会の化学物質部会を中心に、化学物質の取扱量・排出量の把握・削減に努めています。また、PRTR^{*1}対象物質などの月単位での把握と発生源からの排出量削減に最優先で取り組んでいます。

※ PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度) の略。

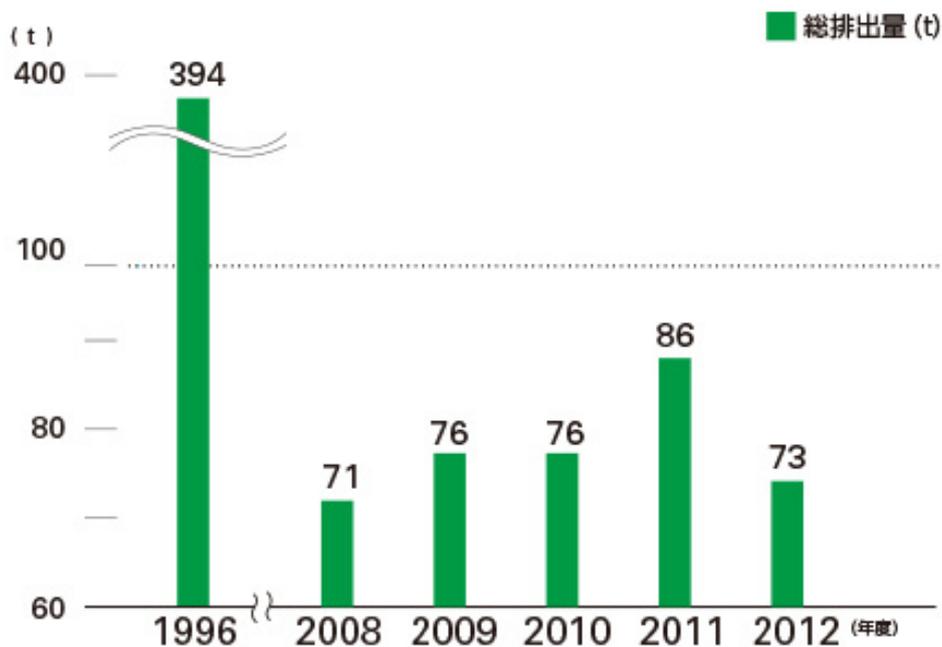
化学物質排出量削減目標

テルモでは、ジクロロメタンの排出量削減のため甲府工場に回収装置を設置し、排出量を年間99t以下にするという自主目標を設定して排出量削減に取り組んでいます。



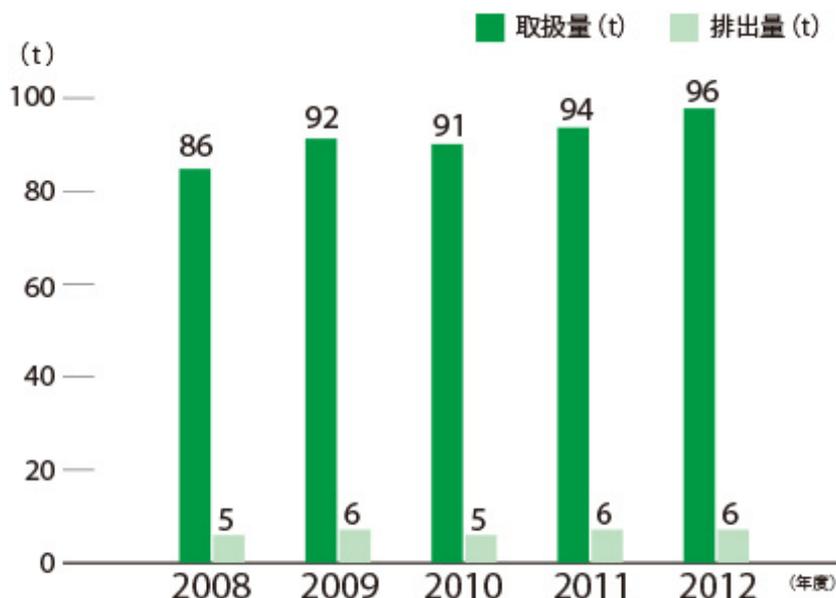
目標

ジクロロメタンの排出量を99t以下



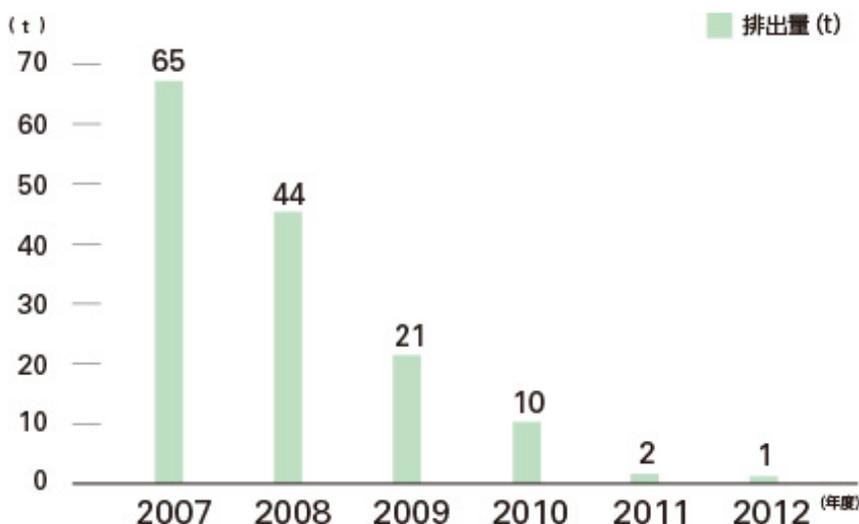
エチレンオキシド排出量削減に向けた取り組み

エチレンオキシドは、医療機器の滅菌に広く使用されています。テルモでは、外部環境へのエチレンオキシド排出量削減のため、触媒酸化式排ガス処理装置を愛鷹工場、富士宮工場、湘南センターに、燃焼方式の処理装置を甲府工場に設置済みです。また、エチレンオキシド滅菌の代替も進めています。



HCFC-141bの代替

モントリオール議定書を背景に、日本国内では2010年からHCFC-141bの生産が禁止となりました。テルモでは、2005年から化学物質部会の中に各工場の担当で構成されるHCFC連絡会を組織して、各事業所で使用しているHCFC-141bの代替のため、使用工程のリストアップ、代替品の情報共有、各事業所での検討結果の共有を行って、HCFC-141bの代替を進めてきました。2009年末に代替品への変更設定を終了し、購入済みの141b含有資材の在庫消化に入っています。一部使用量の少ない用途で在庫消化が継続するものの、今後141b排出量は徐々に減少し、最終的に0になる予定です。



PCBの適正な処分に向けて

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、PCB^{*}を使用したトランス、蛍光灯安定器などはすべて取り外しました。速やかに適正な処分ができるよう、日本環境安全事業株式会社豊田事業所への早期登録も完了しています。

^{*} PCB: polychlorinated biphenylの略。ポリ塩化ビフェニル。

PRTR^{*}対象物質および自主管理物質

(単位:t)

化学物質名	量	富士宮工場	愛鷹工場	甲府工場	研究開発	合計
エチレンオキシド	取扱量	12.8	63.7	18.9	0.2	95.6
	排出量	1.2	3.2	1.7	0.0	6.1
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1・2ジクロロエタン	取扱量	0.0	2.8	0.0	0.0	2.8
	排出量	0.0	2.1	0.0	0.0	2.1
	移動量	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7
HCFC-141b	取扱量	1.8	0.0	0.0	0.0	1.8
	排出量	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4
	移動量	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
HCFC-225	取扱量	11.3	28.7	10.7	0.0	50.7
	排出量	10.2	22.5	10.1	0.0	42.8
	移動量	0.5	6.2	0.0	0.0	6.7
ジクロロメタン	取扱量	0.2	11.6	165.1	0.2	177.1
	排出量	0.2	5.1	67.3	0.0	72.6
	移動量	0.0	6.4	0.0	0.2	6.6
トルエン	取扱量	0.8	0.0	12.3	6.0	19.1
	排出量	0.5	0.0	10.1	0.1	10.7
	移動量	0.2	0.0	2.2	3.3	5.7
フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	取扱量	698.8	4.7	134.5	0.0	838.0
	排出量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	移動量	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8
フッ化水素	取扱量	0.0	16.7	0.2	0.0	16.9
	排出量	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1-プロモプロパン	取扱量	0.0	0.0	1.3	0.0	1.3
	排出量	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0
	移動量	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3
モルホリン	取扱量	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2
	排出量	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ジメチルアセトアミド	取扱量	1.5	0.0	0.0	0.8	2.3
	排出量	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
	移動量	1.1	0.0	0.0	0.2	1.3
ノルマルヘキサン	取扱量	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7
	排出量	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7
	移動量	0.0	6.1	0.0	0.0	6.1
テトラヒドロフラン	取扱量	7.4	37.0	2.3	0.0	46.7
	排出量	6.0	34.4	2.3	0.0	42.7
	移動量	1.4	2.6	0.0	0.0	4.0

^{*} PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)の略。

グリーン調達・グリーン購入の推進

Promotion of Green Procurement and Purchasing

テルモでは、原材料の環境配慮製品購入などのグリーン調達について、関連部署と連携して法令に適合する仕組みづくりを進めています。また、工場やオフィスでの事務用品、その他の備品の購入にガイドラインを設定し、環境に配慮した商品の購入を進めるグリーン購入を実施しています。

グリーン調達

各国の製品化学物質法規制だけでなく、医療機器の特性としてのアレルギー対策や内分泌かく乱作用の懸念による調査など、お客様や行政当局からの様々な要請に対処するため、将来を見据えた含有物質の把握・管理体制を構築すべく、関連部署と協力して取り組んでいます。

各国化学物質規制 (REACHなど) への対応

テルモでは、急速に厳格化が進む各国化学物質規制に対し、関連部署と連携して将来を見据えた体制の構築に取り組んでいます。

1. 法規制情報の収集

政府公報や業界活動などを通じて得た環境規制情報が環境推進室に集約されます。また、化学物質規制が最も先行している欧州をはじめとする各国の現地法人からは、定期的に情報が提供されます。情報を一元管理することで、化学物質規制の対象物質調査や規制対応に漏れがないよう努めています。

2. 設計段階での確認・調達先調査

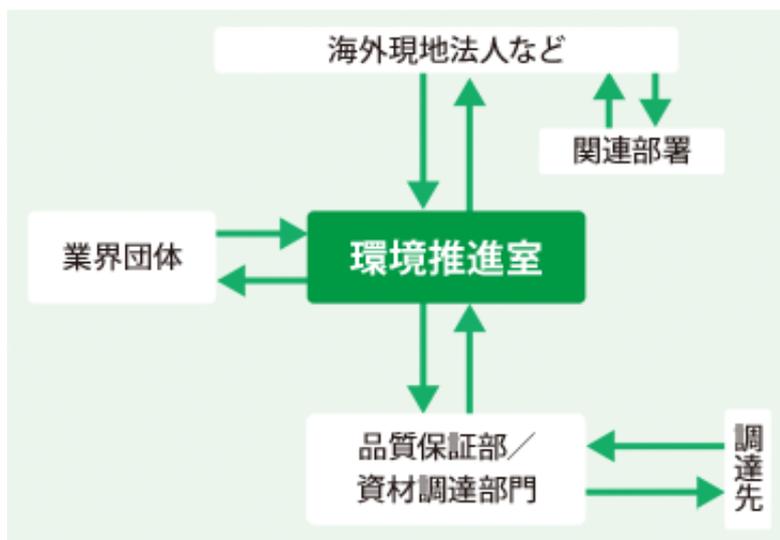
製品設計の段階で法規制対象物質をあらかじめ設計担当者に提示し、設計段階で環境汚染物質などの使用を極力避けるよう配慮しています。設計担当者への意識付けを行うツールとして「Human×Eco[®] 開発指針」を利用しています。同時に、調達資材についての規制物質の含有調査を品質保証部と資材調達部門が協力して実施しています。調査は製品品質上必要な調査項目を含め、様々な目的での原材料調査を一括して行います。調査の回答が得られると、品質保証部がデータベース化を行い、必要なときに速やかにデータを活用できる状態にしておきます。

▶ Human×Eco[®] チェックシート(部分拡大図)

原則	指針	インプット採択 (採択は「○」記入)	選択あり 選択なし
環境負荷の低減 (環境への負荷を低減します)	A1	環境関連の法令・条例・協定・規則額を遵守する	
	A2	環境汚染となる有毒物質を含有しない	
	A3	環境負荷の低い材料を使用する	
	A4	廃棄やリサイクルを考慮して部材・包材・製品等を設計する	

3. 現地へのフィードバック

現地での法規制に対応するため、環境推進室から現地法人および関連部署に対して情報を提供します。



グリーン購入の実施

工場やオフィスでの事務用品、その他の備品に関するガイドラインを設定した上で、グリーン購入を実施しています。今後もグリーン購入を継続し、環境保全への取り組みを強化していきます。

▶ 2012年度 グリーン購入実績

(単位 数量：千個、金額：千円)

		購入全体	環境配慮購入	
本社・営業	数量	34	18	53%
	金額	33,257	17,809	54%
工場	数量	37	25	67%
	金額	15,142	10,951	72%

生物多様性保全の取り組み

Initiatives for Biodiversity Conservation

テルモでは、生物多様性保全に取り組み、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に向けた活動を推進しています。

富士山森づくり～テルモ恵みの森

テルモは静岡県富士宮市に二つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などを生産しています。自然の恵みを利用して事業を行う企業として、台風で倒木などの被害を受けた富士山の森林を、郷土樹種による植林を通して災害に強く、地下水の源となる自然林に再生させる活動「テルモ富士山森づくり」を行っています。2011年度からは、静岡県、森林所有者、テルモの3者で「しずおか未来の森サポーター協定」を締結し、富士宮市麓地区の「テルモ恵みの森」において植林や森林整備を実施しています。

2012年度の取り組み

2012年10月、アソシエイトと家族、地区の中学生を合わせた総勢約180名のボランティアが森づくり活動に参加しました。森に本来自生しているクヌギ、コナラ、カエデなど約200本を植えて、それぞれに鹿の食害対策用のシェルターを設置しました。



「恵みの森」は社内公募によって名づけられ、未来ある子どもたちに恵みがもたらされるようにといった想いが込められています。



アソシエイトが自主的に取り組む「ECOチャレンジ」

アソシエイトと家族が、オフィスや家庭でエコ活動に挑戦する「ECOチャレンジ」キャンペーンを、毎年夏に実施しています。

キャンペーンでは、参加者に具体的なエコ活動の項目を記載したチャレンジシートを配布し、各自が自主的に取り組みます。また、環境社会貢献活動の一環として、参加したアソシエイトの取り組みをポイント化し、取り組み成果に応じて会社が「公益財団法人オイスカ」のプログラムに寄付しています。

2012年度は、特に節電の取り組みを記載したチャレンジシートを配布し、総勢3,254名が参加しました。

また、「大きく育っタネ!キャンペーン」も同時開催し、参加者にチャレンジシートと一緒にミニヒマワリとバジルの種を配布しました。

参加者たちは種を自宅で育て、成長過程の写真を社内イントラネットで紹介するなど、エコロジーの意識を家族とともに育みました。



ひまわり・バジル

Challenge Sheet

チャレンジ項目		入力例	7月	8月	9月
■オフィス編					
照明	昼休みや使っていない部屋の照明は消灯する	●			
エアコン	個別空調を使用する場合は、設定温度を28度に設定する	●			
エレベーター	なるべく階段を使用しエレベーターの使用を控える				
待機電力	昼休みや帰宅の際など、PC等のOA機器のコンセント(主電源)を抜く				
省電力	コピーやプリントアウトは必要最低限にとどめる				
■家庭編					
照明	必要のない灯りはこまめに消す				
待機電力	家電製品は、使用しない時はコンセント(主電源)を抜く				
家電製品全般	家電製品を省エネモードに設定する	●			
エアコン	必要なときだけ使用し、使用時は28℃設定をこころがける				
冷蔵庫	余分な開閉や詰め込みすぎはしない				

チャレンジシート(一部抜粋)

寄付先プログラム

▶ 「子供の森」計画

子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切に作る気持ち」を養いながら、地球の緑化を推進することを目的としたプログラム。テルモからの寄付金は、フィリピンの子どもたちの環境教育や、苗木を植えて育てていく森づくり活動などに使用されています。



▶ 海岸林再生プロジェクト

海岸林は、飛砂防備や防風、津波に対する減衰機能など、地域の生活環境の保全に重要な役割を果たしています。東日本大震災の際の津波による海岸林の喪失によって、東北地方の沿岸部における塩害は日々深刻化しています。「海岸林再生プロジェクト」では、被害を受けた海岸林の再生に向け、種苗の生産拡大・植栽・育林を推進するとともに、農地回復や、被災地域での雇用創出を通じた地域振興に取り組んでいます。



環境・安全監査の実施

Environment, Health and Safety Audit

テルモでは、「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」で定めている通り、法令違反や環境・安全衛生に関する問題の発生を未然に防止するためのEHS内部監査を実施しています。

2012年度EHS内部監査実施状況

法令違反や環境問題の未然防止、労働災害の防止など現在から将来における環境や安全に関わるリスクを低減させることを目的として、国内工場・湘南センター・本社・営業拠点および海外事業所を含めたテルモグループのEHS内部監査を実施しています。

監査項目

1. 環境関連適用法令の遵法性
2. 環境リスク項目の管理状況とパフォーマンス
 - 環境管理組織の運営状況
 - 廃棄物と関連リスクの管理状況
 - エネルギー管理と省エネルギーへの取り組みと実績
 - 化学物質と関連リスクの管理状況
3. 労働安全衛生に関する事項
 - 作業環境管理状況
 - 安全衛生関連の教育訓練実施状況

EHS内部監査結果

- 環境関連法令の遵守について、重大な不適合はありませんでした。
- 各事業所の環境リスクに対する管理状況については、効率的な管理システムが整備され、自主目標の達成に向け確実な取り組みが行われていました。
- 労働安全衛生について対応中の事項は一部ありましたが、重大な不備はありませんでした。



2012年度環境外部監査

廃棄物処理委託先の監査

テルモから排出した汚泥やプラスチック類の廃棄物が、最後まで適正に処理されているかを確認するため、チェックリストを作成し、計画的に廃棄物の収集運搬委託先・処理委託先を監査しています。2012年度は32か所の委託先について監査を行いました。



2012年度外部立入調査

2012年度における環境関連の外部(行政当局)立入調査では、工場や研究開発センターに対し管轄の県・市による水質汚濁防止法、大気汚染防止法および下水道法(対象：研究開発センター)に基づく調査と採水検査が実施されました。いずれも指導事項はありませんでした。



事業活動・物質フロー

Business Activities and Material Flows

エネルギーや原材料などのインプットに対し、生産活動の過程で二酸化炭素や排水、廃棄物などがアウトプットされるという環境負荷を把握し、それらの数値を指標とすることで、環境負荷の低減に取り組んでいます。



※ 事業活動・物質フローの集計範囲は、テルモ株式会社の国内事業所が対象です。

※ 物流におけるNox排出量は、環境省「環境活動評価プログラム(2002年4月)」の係数を用いて算出しています。

サイトデータ

Site Data

テルモは、資源の有効利用とともに環境負荷物質の排出削減のため日々努力しています。
 サイトデータでは、2012年度の国内および海外の生産事業所の環境負荷データを報告します。

事業所	所在地	CO ₂ 総排出量 (千t)	水使用量 (千m ³)	廃棄物総排出量 (t)	特別管理廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)
富士宮工場	静岡県 富士宮市	50	1,796	3,448	16	3,423
愛鷹工場	静岡県 富士宮市	23	548	1,536	149	1,418
甲府工場	山梨県 中巨摩郡	53	1,207	3,980	37	3,779
研究開発センター	神奈川県 足柄上郡	8	100	242	63	181
幡ヶ谷本社	東京都 渋谷区	0.2	2	23	0	23
テルモクリニカル サプライ株式会社	岐阜県 各務原市	0.8	6	33	1	26
テルモメディカル社/ TCVS社	アメリカ メリーランド州	19	67	491	115	227
TCVS社/ テルモハート社	アメリカ ミシガン州	2	16	792	14	408
TCVS社	アメリカ マサチューセッツ州	1 ^{※1}	2	189	0	116
ハーベストテクノロジーズ社	アメリカ マサチューセッツ州	0.3 ^{※1}	—	249	2	24
マイクロベンション社	アメリカ カリフォルニア州	1	—	181	23	34
オンセットメディカル社	アメリカ カリフォルニア州	0.1 ^{※1}	—	0.2	—	—
テルモBCT社	アメリカ コロラド州	16	67	1,497	9	1,176
テルモヨーロッパ社	ベルギー ルーバン	15	54	974	137	453
テルモヨーロッパ社 UK工場	イギリス リバプール	0.05 ^{※1}	0.5	176	0	125
バスケテック社	イギリス グラスゴー	2	14	130	1	49
バスケテック社	イギリス リーズ	0.2	1	146	5	71
テルモBCT社	イギリス ラーン	5	119	149	0	145
泰尔茂医療産品(杭州) 有限公司	中国 浙江省	30	464	711	81	590
長春泰尔茂医用器具 有限公司	中国 吉林省	5 ^{※1}	38	251	0	234
テルモフィリピンズ社	フィリピン ラグナ州	21 ^{※1}	135	783	16	760
テルモペンポール社	インド ケララ州	5 ^{※1}	26	685	1	670
テルモベトナム社	ベトナム ビンフック省	3 ^{※1}	102	100	33	67

- TCVS社：テルモカーディオバスキュラーシステムズ社の略称
- 廃棄物密度は、一般/産業廃棄物を0.2t/m³、有害廃棄物を1.0t/m³として算出しています。
- 電気のCO₂排出係数は、供給事業者の係数を基に算出していますが、※1の事業所は0.55(t-CO₂/MWh)で算出しています。

取り組みの歴史

History of Our Environmental Activities

1971(昭和46)年	愛鷹工場に環境管理室を設置
1972(昭和47)年	愛鷹工場で沈降式からキレート吸着式水銀排水処理施設に変更
1975(昭和50)年	富士宮工場で総合排水処理施設を設置
1976(昭和51)年	注射針ハブ(針の根元部分)の、酸による表面処理を廃止。酸廃液が生じないプラズマ処理に変更 富士宮工場・愛鷹工場が富士宮市と公害防止協定を締結
1979(昭和54)年	富士宮工場でボイラー燃料を重油から硫黄分の少ないLPGへ変更
1980(昭和55)年	シリンジ(注射筒)のガスケットを、ゴムから熱可塑性エラストマーへ変更し、 焼却時の硫黄酸化物発生を防止 愛鷹工場に総合排水処理施設設置
1981(昭和56)年	輸液剤容器(テルパック)を脱塩ビ化。 焼却時に有害ガスを発生しないEVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)に変更
1982(昭和57)年	規制に先立ちトリクロロエチレンの使用を全面廃止
1983(昭和58)年	甲府工場で滅菌方法に排ガスの発生しないガンマ線滅菌を採用 水銀を使用しない電子体温計を販売開始
1984(昭和59)年	脱水銀のため、約70年間製造してきた水銀体温計の製造を終了
1989(平成元年)	ガラス真空採血管を、焼却処理しやすいポリエステル素材のプラスチック真空採血管に切り替え
1991(平成3)年	焼却時に有害ガスを発生しないポリブタジエンのチューブを使用した脱塩ビ輸液セットを販売開始
1992(平成4)年	医療現場の環境を考慮し、脱水銀化の一環として病院用電子血圧計を販売開始
1994(平成6)年	焼却時に硫黄酸化物を発生しない熱可塑性エラストマー素材バルーンカテーテルを販売開始
1996(平成8)年	甲府工場製造工程での、オゾン層破壊物質の特定フロンを使用廃止(順次他工場も実施) 新型プラスチック瓶針輸液セットの生産を開始。脱金属針により、病院内での廃棄物の取扱いが容易に
1997(平成9)年	本社に環境推進室を設置 甲府工場でコージェネレーション(電熱併給)発電が運転開始し、工場使用電力の60%を賄う 富士宮・愛鷹工場でLPGから二酸化炭素発生量の少ない都市ガスに変更 重油の使用全廃(全生産事業所)
1998(平成10)年	シリンジ(注射筒)の小型・軽量化を実施。シリンジ廃棄重量を約25%削減 社内で使用するコピー用紙の再生紙への切り替え開始 富士宮工場にエチレンオキsid排ガス処理のため、触媒酸化式排ガス処理装置を導入
1999(平成11)年	テルモ環境基本方針を制定 富士宮工場でコージェネレーション発電が運転開始 カタログ、仕様変更案内など、再生紙への切り替え開始 在宅で使用する腹膜透析液容器の脱塩ビ化を開始、焼却時に有害ガスを発生しないポリプロピレンに変更、廃棄重量を40%削減
2000(平成12)年	環境委員会が発足 愛鷹工場でコージェネレーション発電が運転開始 容器包装識別表示、材質表示を開始 内部環境監査を開始 営業用ディーゼル車を全廃 2000年度より環境報告書を発行(以後、毎年発行)

2001(平成13)年	甲府工場と愛鷹工場の焼却炉運転停止 PCB含有機器の使用を廃止し、すべてを保管 非塩ビ製素材の小児用輸液セットを販売開始 富士山一斉清掃にアソシエイトと家族約80名が参加
2002(平成14)年	甲府工場でベンゼン・クロロホルムを全廃 甲府工場と愛鷹工場の焼却炉を廃止・撤去 甲府地区と富士宮地区の共同参加(約130名)による富士山一斉清掃 甲府工場に観測井戸設置(地下水質監視) 可塑剤DEHPの代替としてTOTMを使用した輸液セットを販売開始
2003(平成15)年	愛鷹工場と本社でゼロ・エミッション達成 LPGから都市ガスに変更(甲府工場)。国内主要事業所すべてが燃料転換完了 海外事業所の現地調査を実施 テルモ富士山森づくりを開始
2004(平成16)年	「高カロリー輸液用総合ビタミン・糖・アミノ酸・電解質液」で平成16年(第1回)エコプロダクツ大賞 「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」受賞 甲府工場と富士宮工場でゼロ・エミッション達成
2006(平成18)年	湘南センターでゼロ・エミッション達成 RoHS指令適合の電子血圧計を発売 甲府工場にターボ冷凍機を導入 愛鷹工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を導入 「チーム・マイナス6%」に参加
2008(平成20)年	富士宮工場が「エネルギー管理優良工場 関東経済産業局長賞」を受賞 愛鷹工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設 廃プラスチック油化処理テストプラントを設置
2009(平成21)年	「Human×Eco®開発指針」を導入 海外生産事業所の環境監査を開始 富士宮工場が「平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者」に認定 富士宮工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設
2010(平成22)年	富士宮工場に太陽光発電システムを導入 甲府工場が「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞 最優秀賞」を受賞 愛鷹工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設
2011(平成23)年	国内電力大口需要事業所に電力需要見える化管理システムを導入 静岡県・森林所有者・テルモの3者で「しずおか未来の森サポーター」協定を締結 テルモヨーロッパ社ハースロード工場でISO14001/OHSAS18001認証取得
2012(平成24)年	国連グローバル・コンパクトに署名 「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」制定 研究開発センターが「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞 優秀賞」を受賞

社会・環境活動の目標と実績

Targets and Achievements of Social and Environmental Activities

マネジメント・社会・環境パフォーマンスの取り組み項目を充実させながら、その実績と自己評価を掲載しています。今後も継続して社会貢献活動や環境保全活動を推進し、「良き企業市民」として適正な情報を開示していきます。

評価 ○：目標達成 △：目標を一部未達成 ×：目標を未達成

マネジメントパフォーマンス

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2012年度実績	2012年度 評価	2013年度の 取り組み
内部統制への取り組み	●内部統制システムの継続的な見直しと運用	●内部統制システムの整備・運用	○	●内部統制システムの整備・運用
コンプライアンスの推進	●コンプライアンス研修の継続	●コンプライアンス研修の継続	○	●コンプライアンス研修の継続

社会パフォーマンス

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2012年度実績	2012年度 評価	2013年度の取り組み
アクセス性の高いコールセンター	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持	●受信率96%、着信応答時間2.3秒	○	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持
障害者雇用の推進	●障害者雇用率1.8%の維持	●2013年3月末現在、障害者雇用率2.06%	○	●障害者雇用率2.0%以上を維持
女性社員の育成	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を実施	●女性管理職比率4.1% (2013年3月末現在)	○	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を推進
公正な採用の推進	●人種・国籍・性別・宗教・身体などに関係なく、能力をベースとした採用を実施	●採用担当者の教育、マニュアルの整備	○	●公正な採用およびそのための採用担当者の教育を継続
ボランティア活動の支援	●ボランティア活動の支援	●「多摩川クリーン作戦」(東京)への参加をはじめとするボランティア支援活動 ●エコキャップ運動に参加 ●事業所周辺の清掃活動実施	△	●ボランティア支援活動の継続

環境・安全パフォーマンス

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2012年度実績	2012年度評価	2013年度の取り組み
事業活動が環境・安全衛生に与える影響・リスクの削減	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の環境・安全衛生リスクを把握し管理体制を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価の継続 リスクアセスメントの継続 	△	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価の継続 リスクアセスメントの継続
環境と安全に配慮した商品開発	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止・事故防止などにやさしく且つ小型軽量・省エネなど環境にやさしい商品/生産プロセスを増やす 	<ul style="list-style-type: none"> RoHS指令適合製品の開発と保証システム構築継続 Human×Eco®開発指針の運用促進 環境と安全に配慮した製品の開発推進 	○	<ul style="list-style-type: none"> RoHS指令適合製品の開発と保証システム構築継続 Human×Eco®開発指針の運用促進 環境と安全に配慮した製品の開発推進
環境汚染の防止	<ul style="list-style-type: none"> ジクロロメタンの排出量99t以下を継続 エチレンオキシド敷地境界濃度の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ジクロロメタンの排出量は73t エチレンオキシド敷地境界濃度の自主測定実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ジクロロメタンの排出量99t以下を継続 エチレンオキシド敷地境界濃度自主測定継続
労働災害などの事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> 死亡・重大労災をゼロに、休業労災件数を前年度からダウン 	<ul style="list-style-type: none"> 2012年度死亡・重大労災ゼロ(前年度0件)、その他休業労災件数3(前年度2件) 度数率^{※1}: 1.68084 強度率^{※2}: 0.00616 	△	<ul style="list-style-type: none"> 死亡・重大労災ゼロを維持、休業労災件数を前年度からダウン
エネルギーや資源の有効活用と適正管理	<ul style="list-style-type: none"> 2012年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比50%削減する 	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量原単位を1990年度比46%削減 節電の推進 電力の見える化への対応 「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、節電を目的とした社内エコキャンペーンの実施 エコドライブの推奨 2013年度以降の二酸化炭素排出量削減目標を策定 	△	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー・節電の推進 「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、社内エコキャンペーンを実施 エコドライブの推奨
廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を総廃棄物量比1%未満にする 	<ul style="list-style-type: none"> 営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量は総廃棄物量比0.3% グループを含めた電子 manifests の利用を促進 	○	<ul style="list-style-type: none"> 営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量の廃棄物等総排出量比0.5%未満にする グループを含めた電子 manifests の利用を促進
環境・安全衛生マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> テルモグループ環境・安全衛生マネジメントシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 環境と安全衛生を統合したマネジメントシステムを整備しテルモグループ生産拠点への導入を開始 国内事業所、国内グループ会社の環境安全監査を実施 テルモフィリピンズ社の環境安全監査実施 テルモベンポール社血液バック工場でISO14001/OHSAS18001認証取得 	○	<ul style="list-style-type: none"> 第三者認証取得に向け富士宮工場で環境と安全衛生を統合したマネジメントシステムを運用開始 テルモグループ内の環境安全監査を継続実施

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2012年度実績	2012年度 評価	2013年度の取り組み
生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> 社会や地域の一員として環境保全活動を推進し、生物多様性の保全に努める 	<ul style="list-style-type: none"> テルモ富士山森づくりに180名参加 社員参加型エコ活動に3,254名参加 	○	<ul style="list-style-type: none"> テルモ富士山森づくりの継続 社員参加型エコ活動の継続
環境・安全衛生 コミュニケーション の推進	<ul style="list-style-type: none"> 社会・環境報告書の発行 環境月間の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 2012年版社会・環境報告書の発行 環境月間の取り組み 社員対象の環境安全教育の実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> 2013年版社会・環境報告書の発行 環境月間の取り組み 社員対象の環境安全教育の継続
環境・安全衛生に関する コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> 環境・安全衛生に関する法律、条令、協定等の遵守、海外での法令遵守の確認 	<ul style="list-style-type: none"> REACH等海外化学物質規制への対応 改正水質汚濁防止法への対応 	○	<ul style="list-style-type: none"> REACH等海外化学物質規制への対応継続 環境・安全衛生に関するコンプライアンス研修を実施 法改正情報の収集

※1 度数率：労災における死傷者数÷延べ労働時間×1,000,000

※2 強度率：延べ労働損失日数÷延べ労働時間×1,000

5年間財務サマリー(連結)

5-year Financial Summary (Consolidated)

テルモ株式会社及びその連結子会社
3月31日に終了する会計年度

会計年度:	単位: 百万円				
	2008年度 (2009年3月期)	2009年度 (2010年3月期)	2010年度 (2011年3月期)	2011年度 (2012年3月期)	2012年度 (2013年3月期)
売上高	¥ 302,747	¥ 316,009	¥ 328,214	¥ 386,686	¥ 402,294
営業利益	54,040	63,282	62,607	63,049	53,216
税金等調整前当期純利益	52,353	63,406	51,560	49,650	52,285
当期純利益	36,878	40,722	32,339	24,167	47,014
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,616	67,352	46,829	56,200	50,270
投資活動によるキャッシュ・フロー	(23,988)	(25,273)	(18,989)	(247,182)	(31,294)
フリーキャッシュ・フロー	7,628	42,079	27,840	(190,982)	18,976
財務活動によるキャッシュ・フロー	(34,821)	(11,488)	(26,417)	182,982	(22,340)
研究開発費	17,158	17,528	20,356	24,322	27,129
設備投資支出額	17,837	18,440	21,562	21,132	25,715
減価償却費 ^(注1)	20,382	19,909	20,392	28,835	32,554

1株当たり指標 ^(注2) :	単位: 円				
	当期純利益	¥ 191.86	¥ 214.44	¥ 170.30	¥ 127.28
配当金	32.00	32.00	34.00	39.00	44.00
純資産	1,464.27	1,668.93	1,765.32	1,855.25	2,304.42

会計年度末:	単位: 百万円				
	流動資産	¥ 193,659	¥ 230,432	¥ 236,511	¥ 256,868
流動負債 ^(注3)	93,701	99,732	78,846	157,998	115,844
運転資金	99,958	130,700	157,665	98,870	171,111
総資産 ^(注3)	379,065	425,508	420,038	692,520	771,032
純資産	278,167	317,140	335,457	352,537	437,909
資本金	38,716	38,716	38,716	38,716	38,716

経営指標:	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
ROE	13.0%	13.7%	9.9%	7.0%	11.9%
ROA	9.3%	10.1%	7.6%	4.3%	6.4%
自己資本比率	73.4%	74.5%	79.8%	50.9%	56.7%
流通株式数(千株)	189,898	189,895	189,881	189,879	189,878
期末社員数(人)	13,439	13,740	14,761	18,112	18,893

(注) 1. 減価償却費には、のれん償却費を含んでいます。

2. 1株当たり当期純利益に対しては、2002年4月1日より実施されている企業会計基準が適用されています。

3. 2010年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号2008年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号2008年3月31日)を適用しています。

4. 連結子会社のうち12月決算であったアジア地域の5社について、会計期間の統一を実施しました。そのため2010年度におきましては、2010年1月1日から2011年3月31日までの15か月決算となり、売上高で1,923百万円、営業利益970百万円、経常利益916百万円、当期純利益685百万円それぞれ増加しています。

事業別概況

Overview by Business Segment

心臓血管領域事業

- 売上高は前期比5.7%増の1,697億円
- 国内ではカテーテル事業が前期比で減収
 - －カテーテル製品群への薬価・公定価改定による価格の下落
 - －薬剤溶出型ステント「Nobori」、相次ぐ他社の新製品発売によるシェア下落
- 海外では全ての地域でカテーテル事業が好調
 - －北米でのTRI(手首の血管を通じて行うカテーテル手技)の普及拡大などにより、二桁伸長
 - －中国では症例数増加により、現地通貨ベースで前期比約30%伸長

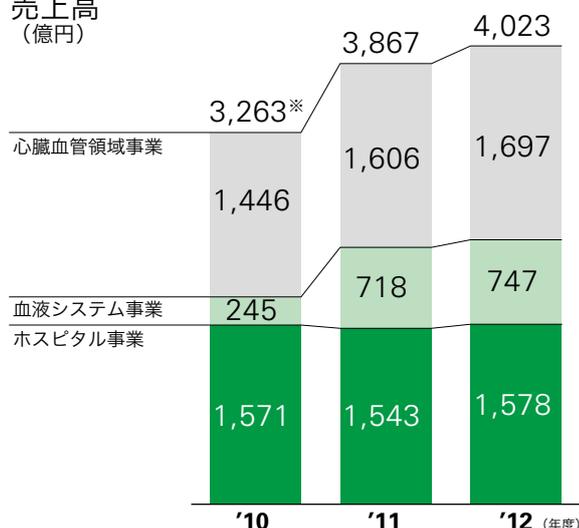
血液システム事業

- 売上高は前期比4.1%増の747億円
- 国内では前期比で減収
 - －前期の全血採血分野の需要増の反動により減収
 - －成分採血装置の売上シェアは大きく伸長
- 海外では堅調に伸長
 - －全地域のアフェレシス治療分野で好調に売上を拡大
 - －北米での輸血需要低下により、全血採血分野での売上減

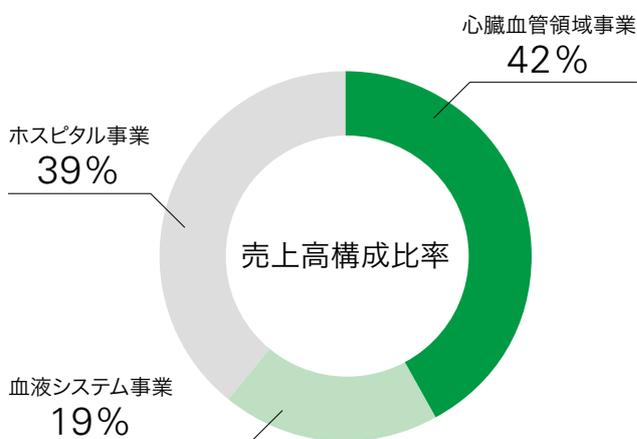
ホスピタル事業

- 売上高は前期比2.3%増の1,578億円
- 国内では、前期比で増収
 - －薬価が引き上げられた電解質輸液剤、慢性期市場向け半固形栄養食品、ドラッグ&デバイス(D&D)事業の受託ビジネスや造影剤が引き続き堅調に推移
- 海外では、前期比で増収
 - －現地通貨ベースで米州と欧州では減収となるも、中国およびアジアで増収

売上高
(億円)



※ 12月決算法人の会計期間統一による調整1,923百万円は含まれておりません。



地域別営業概況

Overview by Geographic Segment

日本

- 売上高は前期比2.4%減の1,859億円
- 薬価・公定価改定による価格下落がカテーテル事業に大きく影響
- 薬剤溶出型ステント「Nobori」、他社の新製品発売によるシェア下落から回復厳しく

欧州

- 売上高は前期比5.1%増(現地通貨ベースで6.5%増)の754億円
- 財政危機の影響で価格下落の傾向が継続
- 医療経済性の高いカテーテル製品は診断用・治療用ともに好調
- 血液システム事業は、前期の需要増の反動により、上期は大幅な減収となるも通期で回復傾向

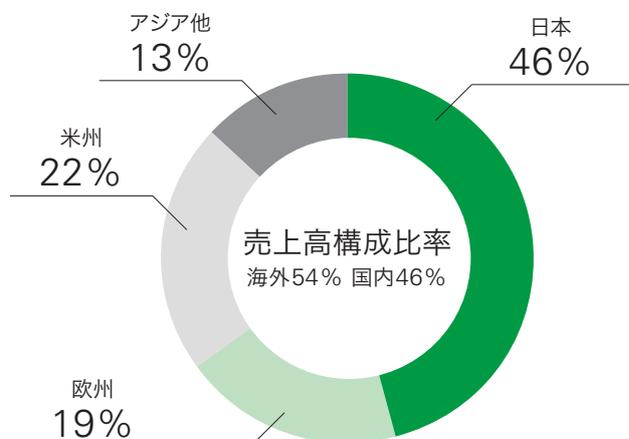
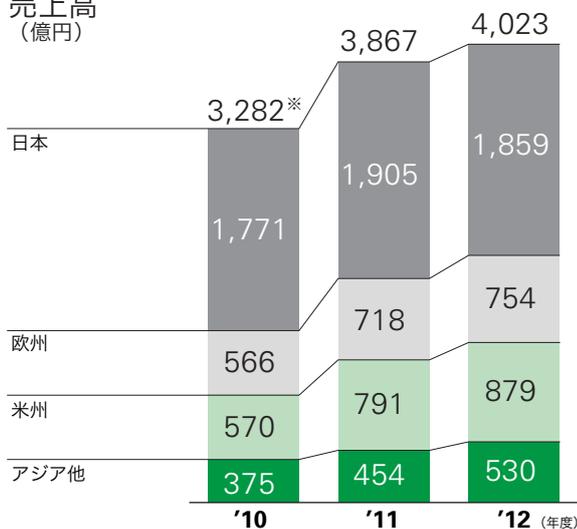
米州

- 売上高は前期比11.2%増(現地通貨ベースで6.3%増)の879億円
- 北米でのTRI普及拡大により、診断用デバイス(アクセスデバイス)が好調
- 血液システム事業では、アフレスシ治療分野製品の売上が好調

アジア他

- 売上高は前期比16.9%増(現地通貨ベースで12.5%増)の530億円
- カテーテル事業全般で好調、特に中国は流通網と営業体制の強化で二桁伸長を継続
- ホスピタル事業の製品で好調に伸長
- 血液システム事業は全血採血、成分採血、アフレスシ治療の各分野で好調に伸長

売上高
(億円)



※ 12月決算法人の会計期間統一による調整1,923百万円が「アジア他」に含まれています。

報告方針

Reporting Policy

本報告書は、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」の実現に向けた事業活動をステークホルダーの皆様に分かりやすく報告し、社会とのコミュニケーションを促進することを目的に作成しました。

特集では、企業理念の実現に向けたテルモの姿勢として、患者さんに負担の少ないカテーテル治療への取り組みや、アフレルシス治療への取り組みについて紹介しています。また、今年度より新たに環境安全衛生への取り組みとして報告内容を加えました。

対象範囲

可能な限り国内外の連結決算対象のテルモグループを報告対象としましたが、項目により、報告対象が異なる場合があります。

対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)

活動には、一部直近の内容も含まれます。

発行時期

今回発行：2013年8月

前回発行：2012年8月

次回発行：2014年8月予定

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2011」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

報告書アーカイブ方法

過去の報告書は年度ごとにPDF形式にまとめ、ウェブサイトを通じて報告しています。